



JAC Tochigi

発行元 日本山岳会栃木支部 発行元住所 〒321-1262 栃木県日光市平ヶ崎 176-4 渡邊雄二方

2022 年

5 月号

2022(令和4年)5月21日発行

栃木支部報

目次

p 1. __合併号の発行に当たって！！

p 2. -3. __総会での支部長挨拶

p 4. -5. __2020 年度活動報告

p 6. -30. __2021 年度活動報告

p 31. -36. __会員投稿・会員情報

p 37. __追悼

p 38. __支部会員名簿、あとがき

14・15

合併号

支部報 14・15 合併号の発行に当たって 支部長 渡邊雄二

○昨年 4 月に「2021 年通常総会にあたって」と題して、支部長としての 2020 年の支部活動の総括をしました。コロナ禍の緊急事態宣言下で 2020 年度中に実際に会員が活動できたのは 11 月に紅葉と温泉の山旅の「秋山山行」だけという寂しい結果でした。企画した公益事業もすべて中止せざるを得ないという苦渋の選択でした。そのような状況にあっても、JAC120 周年記念事業「全国山岳古道調査」への取り組みなどは、プロジェクトチームを立ち上げ実施調査への準備を整えて来ました。

○2021 年度の始まりに当たっては、オリンピック・パラリンピックの 1 年延期開催の延期もあって、With コロナに対応しながら、安全・安全で、栃木支部としての良さを生かしながらクラブライフを楽しめる支部活動を目指して活動をはじめました。事務局体制も変わり「支部通信」による情報発信に努めながらの活動でしたが、コロナ禍はなかなか収まらず、新しい生活様式の定着もあって、支部会員が集まっての活動もままならない状況が今も続いております。そのような中にあっても、「親子登山教室」、「春山山行」、「秋山山行」、「冬山山行・懇親会」、「マスターズクラブ」、「ユース栃木」、「古道調査プロジェクト」のそれぞれの活動は充実して行えました。

○また支部会員の個人山行もそれぞれの所属の活動として行っており、その一部は支部通信などで紹介しました。文化活動も桑野会員をはじめとして会員の個人的な業績として各方面で紹介されております。

○「公益事業」はこの 2 年間実施することはできませんでしたが、前向きに充電期間ととらえ次期開催に向けて準備を怠らないようにしたいと思います。

○2022 年に向けては、より一層工夫をこらしながら、会員同士の情報交換を推進し「栃木支部会員で良かった、楽しい!」という雰囲気醸成しながら、クラブライフを充実させていきたいと思います。

○会員の皆様の積極的な参加をお待ちしています。

○この 2 年間で、悲しい出来事もありました。2020 年 2 月 14 日には小島守夫氏(享年 80 歳)、2021 年 11 月 20 日には坂口三郎氏(享年 94 歳)のお二人が逝去されました。お二人とも栃木支部の設立会員であり、支部活動に大いに貢献していただきました。共に亡くなる直前まで支部活動にお元気に参加されていたので、突然の訃報には今なお悲しみは癒えません。心よりご冥福お祈りしております。

渡邊雄二支部長挨拶・・・2021 年度通常総会挨拶予定原稿より

○2020 年 2 月、横浜港に寄港したダイヤモンドプリンセス号船内の新型コロナ感染問題から、私たち現世の人間が経験したことのないうコロナ禍に翻弄される日々が始まりました。感染経路不明のまま、4 月 16 日には全国に「緊急事態宣言」が発令され、日常生活をはじめあらゆる経済活動まで規制される事態が大なり小なり続いております。現在の状況は、1 年前の感染状況より厳しい状況であることは否めません。WITH コロナの生活様式を模索している毎日です。

○栃木支部は 2020 年 4 月 26 日に春山山行(高鈴山)から新年度の活動を始める予定でした。参加者も確定し、準備も整っていましたが「緊急事態宣言」下では中止せざるを得ませんでした。その後、コロナ禍の状況は一進一退を繰り返しながら収束の先が見えない日々が続いております。

○支部の共益事業については、通常総会は書面決議で開催し全て原案通りに承認されました。支部報 13 号については、総会資料とともに郵送しました。夏山山行・懇親会は中止、冬山山行・新年会も準備万端、参加者も確定し、山登りとアンコウ鍋を楽しみにしていましたがコロナ禍が収まらずにこれも中止、群馬支部主管の四支部合同懇談会(榛名湖温泉)も参加申し込みをした後に中止となりました。

○唯一実行できたのは秋山山行でした。11 月 8 日、天候にも恵まれ高原山(鶏頂山、釈迦が岳)で紅葉と温泉の山旅を楽しむことができました。参加者は担当の増淵委員以下 10 名、日塩もみじラインの西口登山口から鶏頂山、釈迦が岳を往復しました。登山の最中には、蓮實、桑野両会員から高原山、会津西街道、奥の細道等に関する講義を拝聴し、山岳会の行事らしい格調のある山行になりました。下山後は、会津西街道の高原宿場を史

跡見学、120 周年事業で取り組む古道調査の下調べにもなりました。温泉の楽しみは、塩原温泉塩の湯「明賀屋」でお世話になりました。支部会員の君島氏のご厚意で名湯に浸かり、山行の疲れをいやすことができました。このような山行は、関係者の皆様のご協力、単なる山登りだけでなく、歴史や文学を学び、秘湯を楽しむことのできた、まさに日本山岳会のクラブライフを楽しむ行事になったことと思います。

○公益事業に関しては、全て中止にせざるを得ませんでした。県山岳・SC との共催である日光清掃登山、那須岳クリーンキャンペーン、海外登山の集いは企画段階で中止。親子登山教室については、学習院山桜会のご心配をいただきましたがこれも中止にせざるを得ませんでした。コンセーレとの共催「山の講演会」は 2 月 11 日に日本野鳥の会栃木県支部幹事の刑部節氏を講師に「ながら山歩きの進め」～君の名は?泣くまで待とうホトトギス～と題して、広報も行い準備完了となりましたがこれまたコロナ禍の改善が見込めずに中止の決断になりました。この講演会は、講師の先生にご了解の上、2021 年度に再度企画したいと思っています。

○以上のように、共益事業、公益事業とも企画したものは開催準備が完了したにもかかわらず、苦渋の決断で中止したものが殆どで、担当委員には大変ご苦勞をおかけしてしまいました。この場を借りて労をねぎらいたと思います。ありがとうございます。

○事業の企画、中止などについては、リアルな対面役員会が持てませんでしたので、その都度役員各位とネットや電話等で協議をして決定して参りました。コロナ感染状況がやや改善の方向が見られた秋の 10 月 11 日に、やっと対面の役員会を開催することができました。ここでは、コロナ感染防止対策

を徹底することで、今後の事業を実施すること、支部会員がクラブライフを楽しめる(栃木支部会員で良かったと思える)ことのできる支部運営を行うことなどを確認して、後期の事業を検討しました。

○その中で特筆すべきは「全国山岳古道調査 栃木支部プロジェクトチーム」を立ち上げたことです。これは、会報「山」で紹介されていますが、日本山岳会 120 周年記念事業企画「全国山岳古道調査」を各支部が担当することになりましたのでそのためのチームです。栃木支部プロジェクトチームは、支部長直属の組織としてリーダー渡邊、サブリーダー石澤、アドバイザー坂口、蓮實、桑野、メンバー増渕、仙石、長、仲畠、猿山、深谷、荒井の 12 名で構成しました。2021 年 3 月までに 3 回の会合を持ち、次の 5 ルートを本部チームに提案しました。

1.三峯五禅頂の道

2.会津西街道

3.西沢金山への道

4.会津中街道

5.足尾と日光神領を結ぶ半月峠の道

今後の予定としては、本部チームと調査ルートを決め 5 月から実施調査に入る予定です。支部会員の皆さんと一緒に楽しむ調査企画等も予定しますので後日ご案内します。是非、ご協力のほどよろしくお願いします。

○本部との動向については、支部合同会議が 9 月 26 日に東京四谷の主婦会館プラザエフでハイブリット方式(対面とオンライン)で行われました。私が対面会議に出席しました。内容は、事業報告、財務会計、記念事業、「山の日」事業、年次晩餐会の中止、会員名簿の発行、山岳古道調査などについてでした。その後各支部からコロナ禍での支部活動の状況報告と意見交換がありました。各地方によって感染状況が異なるため、おおむね活動が実施できている支部やほとんどできない支

部など千差万別でした。いずれにしても感染防止対策をしながらの事業展開でどの支部も工夫を凝らしながらの大変な状況でした。

○2021 年度になり、第 1 回支部連絡会がオンラインで 4 月 10 日に開催されました。内容としては、令和 3 年度の事業計画、予算、記念事業、指導者養成講習会、保険、山小屋の状況、山岳基本法の取り組み等についてでした。その後意見交換がありましたが時間の制約もあり特に議論になった事項はありませんでした。支部連絡会終了後に、各支部の古道プロジェクト担当者による「第 1 回全国山岳古道会議」がオンラインで開催されましたので、引き続き私が参加し具体的な取り組みについて協議しました。

○2021 年度の始まりにあたって、去年は緊急事態宣言、オリンピック・パラリンピックの延期、日常生活の大変化等と激動の 1 年でした。WITH コロナで新しい生活様式も叫ばれ直接人と接しないリモートが普及してきました。山登りのクラブが仲間と活動できないと言う大変寂しい状況が続いております。しかしながら、この現状の中でも WITH コロナに対応しながら、安心して安全な支部活動ができるのではないかと模索していきたく思います。去年は、秋山山行しか実施できませんでした。本年度は早速 4 月 23 日(総会の翌日)に昨年計画した高鈴山で春山山行を計画しています。コロナ感染防止対策を確実にしながら形式にとらわれず WITH コロナを念頭におき、クラブライフを楽しめる支部活動を充実していきたくと思っています。そのためには情報の共有が不可欠だと思います。今後とも情報発信に努めながら支部会員の皆さんとともに活動していきたく思いますので、会員の皆さんの積極的な参加を期待しています。

2020(令和 2)年度活動報告

2020 年度通常総会

予定日時：2020 年 5 月 23 日(日)
予定場所：宇都宮市『コンセーレ』

- コロナ禍のために書面での議決権行使(5 月 23 日～6 月 1 日提出期限)により実施。支部会員 45 名中、議決権行使 33 名。事業報告・決算、事業計画・予算など提案通り承認された。
- 同日付で支部報第 13 号を発行した。

支部役員会

日時：2020 年 10 月 11 日(日)
場所：宇都宮市『コンセーレ』タイムズスクエア

- コロナ禍により 1 回のみの開催。支部運営や事業についての協議は常時メールにより実施した。

オンライン講演会 『コロナ禍における登山について』

日時：2021 年 3 月 16 日(火)
オンライン開催

- 栃木県「山の日」協議会事業として開催の上記講演会に協議会構成員として参画した。

山岳古道調査プロジェクト チーム会合

日時：2020 年 11 月、2021 年 2 月、3 月

- 120 周年記念事業「全国山岳古道調査」に協力するために、栃木支部に「山岳古道調査プロジェクトチーム」が発足した。
- 3 回の会合において、調査対象なる古道を検討した。具体的な調査古道は支部長挨拶にもある通り、
 1. 三峯五禅頂の道、2. 会津西街道
 3. 西沢金山への道、4. 会津中街道
 5. 足尾と日光神領を結ぶ半月峠の道とすることになった。

秋山山行

日時：2020 年 11 月 8 日(日)
場所：高原山【鶏頂山(1765m) 釈迦ヶ岳(1795m)】
参加者：会員 10 名
増渕 CL、渡邊、仙石、蓮実、菱田、桑野、猿山浩
猿山真奈美、大島、鬼頭
行動概要
道の駅しおばら 7:00 集合同発 7:20＝鶏頂山
西口登山口 P8:05、8:20 発…鶏頂山 10:30～55
釈迦ヶ岳 11:50～12:30(昼食)…登山口
P14:15、同発 14:30＝明賀屋本館(君島会員宅)
で入浴 15:00～16:00＝道の駅しおばら 17:00

- 道の駅「しおばら」に参加者が集合。当初 11 名参加予定であったが、前日に所用で 1 名が不参加となり 10 名となった。地元の神島仁誓会員がわざわざ差し入れ(果物)を持って激励に来てくれた。コロナ禍で沈滞ムードの中、大変ありがたく頂戴した。
- 増渕車と猿山車に分乗して、日塩有料道路経由で鶏頂山西口登山道駐車場に到着。すでに数台の登山者の車が駐車していた。
- 西口登山道入口には立派な鳥居と狛犬が鎮座して、登山者の安全を見守ってくれている。緩やか笹藪の斜面を登っていくと後ろから元気な女性の一団が追い付いてきた。聞けば、わざわざ福島から高原山登山に出かけてきたとのこと、清々しいおばさん達であった。かつてのメープルヒルスキー場のリフト終点付近まで登ると鶏頂山の山頂を望むことができる。カラマツ林の中を進み弁天池で休憩。ここには社や石碑が立ち並び宗教登山が盛んにおこなわれていた当時が偲ばれる。今回の参加者、蓮実、桑野両会員は高原山や会津西街道、奥の細道などの古道の研究者なので、ところどころで立ち止まり貴重な講義を受けることができ大変勉強になった。弁天沼からは右の登山道に入り、鶏頂山の急な登りとなる。一息つくと稜線上の鞍部に到着、左は釈迦ヶ岳、右は鶏頂山山頂へと続く。まず

は鶏頂山頂へ。山頂には立派な神社がまつられており、今日は天候に恵まれたのでここからの日光連山の展望も素晴らしい。

○小休止の後、釈迦が岳へ向かうために往路の鞍部へと下りそこから稜線通しに御岳山、さらには釈迦が岳山頂への急坂を登り山頂到着。秋晴れの紅葉シーズンの日曜日とあって、八方ヶ原からの登山者も多く昼時と重なって山頂は大賑わいであった。360度の展望と昼食を大いに楽しむことができた。その後、往路を下山し無事に西口登山口に到着した。

○その後、桑野会員の案内で会津西街道の一部である高原宿(高原峠)の史跡見学。太閤秀吉、吉田松陰、イザベラバードなどが通った由緒ある古道である。

○今回の秋山山行のもう一つの楽しみは、塩原温泉塩の湯「明賀屋本館」での温泉三昧である。経営者である支部会員の君島氏のご好意で、名湯に入りゆっくりと疲れ癒すことができた。大変お世話になりました。ありがとうございます。

○その後、道の駅「しおばら」に戻り、無事に支部支部山行久しぶりの支部山行を終えることができた。



西口登山道入口にて



釈迦ヶ岳山頂にて

残念ながら中止となった支部関連行事

1	春山山行	2020年4月26日(日)	高鈴山～御岩神社	
2	日光清掃登山	2020年7月5日(日)	白根山・五色山等	山岳スポーツクライミング連盟と共催
3	親子登山教室	2020年7月18日(土)～19日(日)	奥日光	
4	夏山山行・懇親会	2020年8月22日(土)～23日(日)	奥鬼怒・加仁湯	
5	那須岳クリーンキャンペーン	2020年9月6日(日)	那須岳	山岳スポーツクライミング連盟・県労山と共催
6	冬山山行・新年会	2021年1月16日(土)～17日(日)	高鈴山・栄蔵室山	
7	第14回山の講演会	2021年2月11日(木) 講演予定者：刑部節氏	コンセーレ	県青年会館との共催
8	海外登山の集い	未定	未定	山岳スポーツクライミング連盟海外委員会と共催
9	マスターズクラブ	山行活動中止		
10	ユース栃木	山行活動中止		

2021(令和3)年度活動報告

◇◇◇総会・役員会等◇◇◇

2021 年度通常総会

日 時：2021 年 5 月 22 日(土)16:00~17:00
場 所：宇都宮市『コンセーレ』
3F 中会議室
参加者：18 名

- 午後4時、定刻通り神島会員の進行により総会に入り、増渕会員により令和3年度の通常総会の開会が告げられる。支部長挨拶は1頁に記載。来賓祝辞は来賓欠席のため割愛。
- 議長選出：事務局より石澤会員の議長提案有り、出席者全員のより承認任される。総会成立確認が行われ、支部会員総数46名、出席者18名、欠席の委任者が18名、計36名となり、成立が確認される。
- 第1号議案および第2号議案：前田事務局長(令和2年度)より報告がある。その後会計監査報告が牛窪会員より、適正である旨報告される。質疑等なし。参加者委任者の計36名の賛成により承認される。
- 第3号議案：渡邊支部長より、令和3年度役員が提案される。質疑等なし。参加者委任者の計36名の賛成により承認される。
- 第4号議案および第5号議案：猿山会員より提案がある。質疑等なし。参加者委任者の計36名の賛成により承認される。
- 報告：支部実務要領の改訂について、渡邊支部長兼事務局長より説明がある。森会員より、会計担当者は誰があたりのか質問が出される。渡邊支部長より、支部規約第7条3により事務局長が担当する旨回答する。その他ののは特になし。議事終了で、石澤会員の議長を解任。
- 閉会：仙石会員より通常総会の閉会が告げられる。
- 閉会后、会員の近況報告があった。特に、新会員の水野雅章氏からは船村徹先生と「山の日」に関しての逸話が紹介された(「山」2021年4月号参照)。残念ながら水野会員は近々

県外に引っ越すとのことだが、栃木支部所属を継続することになっている。

- また、支部長より、坂口顧問から支部への寄付のお申し出があったことが報告された。

第1回役員会

日 時：2021 年 5 月 22 日(土)17:15~18:00
場 所：宇都宮市『コンセーレ』
3F 中会議室

- 総会終了後に開催。議事は以下の通り。
- 事業の担当者と主な事業内容について
 - 1 春山山行 石澤副支部長
 - 2 清掃登山 麦倉委員(コロナ禍で中止?)
 - 3 親子登山教室 仲島委員
 - 4 夏山山行・懇親会 石澤副支部長
 - 5 那須岳クリーンキャンペーン 後藤委員
 - 6 秋山山行 増渕委員
 - 7 「山」の講演会 仙石委員
 - 8 海外登山の集い 猿山委員
 - 9 冬山山行 荒井委員
 - 10 支部報 神島委員 (14・15号の合併号として2022年5月発行を準備)
- 委員会関係
 - 1 マスターズクラブ 長委員長より今後の予定が提示された。
 - 2 ユース栃木 荒井委員長より、夏山山行(北アルプス幕営縦走)、冬山山行(幕営縦走)、春山山行(氷雪登攀)を検討中。
 - 3 山岳古道調査プロジェクト
 - ・5月15日に三峯五禅頂の道(中禅寺から古峯神社)の第一回踏査を行った。
 - ・7月10日に会津中街道の一部を踏査予定。なお、プロジェクト委員として菱田克彦会員が参加することになった。
- 坂口顧問からの寄付のお申し出(5月24日付で50万円の寄付)について。役員会で慎重審議しまして、記念の基金などとしてお受けすることになった。坂口顧問に衷心より御礼申し上げます。

第2回役員会

日 時：2021年11月13日(日)15:00~17:00

場 所：宇都宮市『コンセーレ』

出席者：10名

○コロナ禍で開催できなかった役員会をようやく開催。

○前期に行った支部の事業報告、後期の事業計画案、古道調査の進捗状況、坂口三郎顧問からの寄付金の取扱い、「小島守男さんを偲ぶ会」等について議論した。

○坂口三郎顧問からの寄付金の取扱いについては、名称を『日本山岳会栃木支部「坂口三郎」基金』とすることに決定した。なお、現在は、ゆうちょの「振替口座」に保管されているので、今後はゆうちょ銀行「日本山岳会栃木支部」の定額貯金に移管し、基金の利用については、栃木支部活動の振興のために、必要に応じて役員会に諮るものと決まった。（令和3年11月13日から施行する）

第3回役員会

日 時：2022年1月29日(土)

場 所：メール会議(リモート)

出席者：支部役員及び関係委員

○コロナ禍のために事前にメールを配信して役員の意見を頂戴し、すべて原案通りに決定した。

議題1 報告事項

- (1) 支部冬山山行と新年会の実施報告(荒井)
令和4年1月23日(日)~24日(月)
- (2) 支部連絡会議(事務局)(石澤・菱田参加)
令和4年1月20日にリモートで実施
支部の活動事例報告、古道調査、
「山の日」、コロナ禍への対応など
- (3) 古道調査実施状況(渡邊)
11/14 会津西街道(山王峠)

- 12/11 足尾から中禅寺湖(半月峠)
- (4) マスターズクラブ山行報告(長)
12/13 赤雪山
1/17 男抱山・半蔵山
- (5) ヒマラヤの集い(猿山)
2/27 に松田宏也氏(千葉支部長)による
「グレート・ヒマラヤ・トラバース」の講演を予定したが、コロナ「まん延防止措置」
発出のため、急遽中止。
- (6) 「小島守夫さんを偲ぶ会」の中止(石澤)
1/29 に予定しましたが、コロナ「まん延
防止措置」発出のため、急遽中止。
- (7) その他
坂口三郎顧問の急逝により、今後の対応
についてご遺族、栃木県山岳・スポーツク
ライミング連盟、JIMSCA 等と協議

議題2 協議事項

- (1) 「山の講演会」について(仙石)
昨年度コロナ禍で中止にした講演会を改めて実施
講師 日本野鳥の会栃木支部 刑部節氏
日時 令和4年3月27日15時~
会場 コンセーレ

講師紹介：刑部節(おさかべ・たかし)氏

○昭和31(1956)年宇都宮市生まれ。

○昭和53年より県立高校理科教員として奉職。芳賀青年の家所長、黒磯南高等学校長を歴任。

現在は、学校法人TBC学院国際ペット総合専門学校校・国際ファッションビューティ専門学校校長・栃木県バドミントン協会理事・大田原市バドミントン協会会長・日本野鳥の会栃木県支部幹事・大田原理科クラブ事務局長・総合型地域スポーツクラブ大田原ジョイフルスポーツクラブ理事・大田原市史編纂委員自然部会長・公益財団法人飯塚毅育英会奨学生選考委員等の要職に就かれている。

- (2) 支部春山山行について(仙石)
山行地 日光 鳴虫山 1104m

(3) マスターズクラブ山行計画 (長)

期日：2月28日(月)

場所：谷倉山(やぐらさん)

(4) 令和4年度支部通常総会

期日：5月21日(土)

場所：コンセーレ

◇◇◇各種山行◇◇◇

親子登山教室下見山行

日時：2021年7月3日(土)

場所：日光 社山

参加者：8名(渡邊、増淵、菱田、長、村田、君島、
大島、仲島)

行動概要：

今市杉並木公園 6:30＝歌が浜 P7:20～40＝半月
山 P7:55、8:05 発…半月山展望台 8:25～35…半
月峠 9:15～25…阿世潟峠 10:15…社山(昼
食)11:30～12:05…阿世潟峠 12:55…阿世潟 13:10
…イタリア大使館 14:05…歌が浜 P14:25(車回収)
…杉並木公園 15:40、解散

○梅雨時の山行で、雨の降る想定で臨んだが、青空の広がる絶好の山行日和となった。7月18日の本番を想定しながら、危険ポイント、休憩ポイント、解説ポイントと内容、体調不良者が出た場合の対応等を考えながら歩き、下見山行の目的を果たすことができた。今後、当日のスタッフマニュアルとして落とし込み、共通理解の上、40名超えの大所帯の親子登山教室をより良い運営ができるようにしていきたいと考えている。

○半月山駐車場を8:05にスタート。展望台では中禅寺湖の水の色の青さに感動。また、これから目指す社山を確認してあそこが頂上と思っていたが、実はその先であることを思い出した。

○半月峠で休憩し、次の休憩ポイント阿世潟峠へ。中禅寺山のピークを越えていき、思った以上に長いと感じた。地図の読み取りを怠っていたせいである。

○美味しいキュウリの漬け物をいただき、気分一新し10:00出発。ここから本格的な登りと気を引き締めると、あっという間に絶景の休憩ポイントへ。湯滝や竜頭の滝を認め、男体山の勇姿は5合目あたりからガスがかかり、なかなか山頂を見せてくれない。ハクサンシャクナゲの咲く山頂へ11:30到着。山頂の先の開けたところで昼食タイム。

○12:15下山開始。足尾方面から時折ガスが流れきて雨を心配するが、さっと流れていき、また絶景を見せてくれながら、楽しい下りが続く。阿世潟に降り立ち、中禅寺湖畔の砂浜に寄り道。大人でも思わず近づきたくなるもの、子ども達は如何ばかりかと想像。

○歌が浜駐車場に14:25に到着。半月山駐車場にデポしてある車を回収し、集合場所の今市の杉並木公園へ。15:40無事到着し解散した。



親子登山教室(第9回)

日時：2021年7月18日(日)

場所：日光 社山

参加者：親子11組31名、講師1名、会員・連盟スタッフ11名

行動概要：

歌が浜 P7:40 受付、開講式 8:00、同発 8:15＝半月

山 P8:30、同発 8:50…半月山展望台 9:20…半月峠

10:00～20…阿世湯峠 11:10…社山 12:30～13:25

…阿世湯 15:00……イタリア大使館 16:00…歌が

浜 P16:25、閉講式、16:35 解散

○平成24(2012)年に開始された親子登山教室は、今年度第9回を迎えた。昨年度は、コロナ禍のため、開催することができなかったが、コロナ感染防止対策をした上で、開催することとした。今回は親子11組31名と、講師1名、日本山岳会栃木支部、栃木県山岳・スポーツクライミング連盟のスタッフ11名で、日光・社山へ登った。

○2日前に梅雨が明け、夏空が広がる登山日和の天気である。7:40から歌が浜駐車場にて受付を開始、8:00に全員集合し、開講式を行う。支部長の挨拶、参加者自己紹介、スタッフ自己紹介、注意点を確認する。特に熱中症対策として、用心のために500mlペットボトルをプラスアルファしてもらうこと、具合が悪い時は、早めの対処が取れるよう、直ぐにスタッフに伝えてもらうことをお願いした。各自登山の準備をし、8:15半月山駐車場へスタッフの車で移動する。

○歌が浜駐車場から半月山駐車場までは旧中禅寺湖スカイライン約7kmで、標高差は1270mから1595mへと300m超高い。途中の見晴らしの良い所では、富士山が見えた。

○記念写真を撮り、準備運動をして、8:50出発。ソーシャルディスタンスを考えて5人で班編成をし、スタッフ1人が班を担当し、班別行動をする。最初に1班から3班が出発し、4班から6班は10分時間を置いて出発した。登り始めはゆっくりゆっくり歩くが、直ぐに汗が噴き出し、途中水分補給をしながら登り、30分程で半月山展望台に到着。初めて北方面の眺望が得られ、男体山、中禅寺湖をはじめ奥日光の山並み等、360度の展望を楽しむ。水分補給、体調を確認し、短い休憩で出発する。

○半月山山頂はパスし、半月峠へ降る。急斜面

で滑りやすく、岩ゴロゴロ、木の根などに注意しながら、慎重に歩く。時々富士山が見えるか確かめながら、左手の足尾方面、右手の男体山の景色を見ながらも、転ばないように「ゆっくりでいいよ」と声掛け合って降りた。10:00半月峠到着。ここで休憩を利用して自然観察講師の富永先生の解説を聞く。ナナカマドの木の話、ダケカンバとシラカンバの木の見分け方、アキアカネの名前の不思議、最後に登山下りの危険な体験談等が話された。

○「峠」とは周りに比べて一番低い所を言い、この先は中禅寺山に約70mの登り返しとなる。見上げる先の山頂は遠くに感じるが、一步一步足を前に進めると、いつの間にか到着する。山頂は針葉樹に覆われ暗い、水分を補給し、直ぐに出発。ここから阿世湯峠へは、250m程高度を下げなければならない。ミヤコザサに覆われた稜線歩き、教わった樹木を探しながら、樹々の間に中禅寺湖を見ながら、延々と下りが続く。

○11:10予定より30分以上の遅れで阿世湯峠へ到着。ここでもう一度体調確認をし、体調に応じて班を編成し直す。絶対山頂に行きたい人の班、1時間30分の登りに不安で途中の景色の良い所までで結構な人の班、登りはここまでにして、安全に下りたい班の三つの班に分ける。下山時間を考え、13:00までに山頂に着かない場合は、そこで登りは終了して、下山に切り替えること、先に阿世湯に下った班は、そこでのんびり待っていて、登頂隊と合流してから一緒に歌が浜に下山することを約束し、さっそく行動開始。

○社山山頂までは430m余りの登りで、結構な急登である。登山道はほとんど日陰になるような木がなく、時折、吹く風が気持ち良い。1567m地点の雨量観測用のアンテナのある所は岩場のため、その先の広くなった景色の良い所で休憩をする。時間の経過とともに雲が沸き、富士山は隠れてしまい、男体山にも雲が懸かった。偽ピークにだまされ、疲れがピークになってきた。今度こそ山頂が待っているぞと鼓舞し合った。

○先行隊が12時30分に三等三角点のある山頂1826mに到着。後行隊も10数分遅れで登頂を果たし、1年生から6年生の子ども12人、親9人とスタッフ7人の大集団で、コメツガの針葉樹林帯の先の笹原で昼食を頂く。13:10より富永先生の2回目の解説で野生

動物との関わり方等の話が有り、集合写真を撮って、下山を開始する。

- 中禅寺湖に段々近づいていく様や、正面に小さく見える朝出発した半月山駐車場などの景色を楽しみながら、転ばないように注意して降りる。来た道を確認めながらこんなに急な登りだったのだと、改めて感じた。1567m地点まで下山し、細い尾根が終わり先の見えた所だったので、1班から3班は休憩を兼ねて、地図とコンパスの学習を少しだけする。
- 中禅寺湖畔の阿世潟に 15:00 到着。白い砂浜で休憩をし、ここから長い林道歩き、湖岸沿いの道は、ブナやミズナラ、カエデ、シラ

カンバなどの美しい林相である。途中シカに出会う。山頂で富永先生が言っていたとおりで、その後、サルにも出会う。16:00 イタリア大使館別荘記念公園でトイレ休憩し、16:25 歌が浜駐車場に到着。予定より1時間も遅れてしまい、取り急ぎ閉講式を行う。修了証は、共催の一般社団法人栃木県山岳・スポーツクライミング連盟の全国組織の協会から援助を受けていることから出ているもので、子どもたちに手渡された。

- 16:35 全日程を終え解散。スタッフは最後に、半月山駐車場に置いてあるスタッフ車を回収した。



半月山P駐車場で記念撮影



社山の山頂で記念撮影



2021.7.18 am6:05 歌が浜駐車場にて 左から社山 奥に錫が岳・白根山 右に男体山

秋山山行&第3回古道調査

期日:2021年10月16日(土)雨~17日(日)雨・風
場所:那須岳周辺・三斗小屋温泉

参加者:A班:渡邊、菱田、仲畠 A班2:滝田、仙石
B班:猿山浩、猿山真奈美、神長善次、神長純江、
内山昭夫 C班:石澤

行動概要:

○10/16(土):那須友愛の森P7:30=計画輸送7:45

A班:深山ダム経由で三斗小屋宿9:00~20...大峠
への旧道(会津中街道)調査...大峠(昼食11:40
~12:10)...三斗小屋温泉・大黒屋14:00 宿泊

A班2:深山ダム経由で三斗小屋宿9:00~20...三
斗小屋温泉・大黒屋11:00

B班:峠の茶屋P8:30~45...峰の茶屋...朝日岳...隠
居倉...三斗小屋温泉・大黒屋13:00 宿泊
(悪天候のため三本槍岳をカット短縮コース)

C班:B班と一緒に行動し、宿泊せずに峰の茶屋...
峠の茶屋P14:30=帰宅

○10/17(日):三斗小屋温泉・大黒屋発8:00

A班:...避難小屋9:00~10...峰の茶屋...峠の茶屋
10:00=那須友愛の森P11:10~45
(悪天候のため茶臼岳はカット)

A班2・B班:...三斗小屋宿9:30~10:00=深ダム
経由で那須友愛の森P11:45

【第1日:10月16日(土)】

○支部行事の秋山山行と山岳古道(会津中街道)調査を兼ねた那須岳周辺の1泊2日の計画。天気予報は、生憎午後から明日午前中にかけて雨が降る予報。現地に行くまでは分からないと思いながら7:30に那須友愛の森駐車場に集合。すでに弱い雨が降り出し、そこで長さんとご友人はケガを心配し、不参加を決定された。

○A班は滝田氏の車で三斗小屋宿へ移動。前回【7月10日(土)】は、沼原を出発し、麦飯坂から三斗小屋宿を調査したので、今回はその先の調査となる。車で揺られること1時間余り、紅葉にはちょっと早い深山ダム湖を車窓に見ながら、楽々三斗小屋宿に到着。これも、本日お世話になる三斗小屋温泉・大黒屋5代目高根沢大蔵氏と縁の深い滝田氏の案内のお陰。三斗小屋宿の駐車場では、6代目夫人とお子さんが、丁度荷揚げの準備中。
○9:20 藪漕ぎ覚悟、道迷い覚悟で、雨具と

スパッツを着け万全の恰好でA班出発。ところが旧道会津中街道は、道型も残っていて笹も薄く快適である。しかし井戸沢沿いに進んでいくと1回目の渡河地点「苦戸川」となる。水量が豊富で、どこがいいか探しながら苦労して渡り、更に1.2キロほど進み2回目の渡河地点「中ノ沢」。ここは川全体の底面が滑らかな石で水深は浅いが、雨が降り続いており、滑る滑る、少し水に浸かり渡ることになった。

○雨にけぶり、ガスガスで近くしか見えない紅葉を見ながら、熊鈴を鳴らし進むと、先頭を歩く支部長が「キジが横切った」とのこと、見はぐってしまい残念に思っていると、飛ぶ鳥がやけに大きい、顔に赤い所、尾が長い、キジと断定。自然のキジを見たのは初めてのことであった。

○10:30 三斗小屋温泉道の分岐に着き、ここからは歩行者も多い道となるが、直ぐに3回目の渡河地点「峠沢」。その後150m登り11:40大峠に到着。峠の手前から、雨に風が加わり、藪漕ぎはなかったもの悪条件な調査となった。福島県側の風を避けられる所で、昼食タイムとしたが、もう1枚着こみ、早々に切り上げる。

○下山は、もう一度「峠沢」を渡河し、別の地点の「中ノ沢」、「赤岩沢」を渡河し、登り返しがあり、ようやく14:00三斗小屋温泉に到着。

○大黒屋の廊下にストーブが何台も点火されていて、濡れたもの一式を乾かすことができた。憧れの温泉で温まって、10人全員揃ったところで、差し入れのアルコールやお料理で懇親会の始まり。皆さんの経験豊富な話が続き、それは17:30からの夕食の後も続いた。21:00の消灯時間前に電気が消えてしまい、慌てて寝る態勢に入った。

○翌朝6:00から木造りの大浴場は女性専用となる。紅葉を眺めながらの贅沢な温泉を満喫し6:30朝食。8:00出発。今朝も雨が続き、ゴウゴウ、ビュービュー、風が唸り立っている。A班は峰の茶屋経由で峠の茶屋駐

車場へ下山、B班とA班2は温泉道で三斗小屋宿へ向かい、滝田氏の車に乗るコースとした。

○那須岳名物の風は、那須避難小屋を出て峰の茶屋避難小屋周辺が一番強く、風速20m?あろうか、風の呼吸にあわせて一歩一歩歩いた10:00に峠の茶屋駐車場に着き、那須友愛の森へ移動。まもなくB班と合流し、解散となった。



冬山山行

期日：2022 年 1 月 23 日(日)～24 日(月)

場所鶏足山・焼森山及び栄蔵室山周辺

参加者：渡邊、石澤、増淵、仙石、大島、長、林、荒井、
深谷優子、佐藤登代子・深谷美月(支部会員外)

行動概要：

○1/23(土)：石澤宅 9:00＝登山口 P9:50…赤沢富士
10:10…鶏足山 10:50～11:10…鶏石 11:20～30…
焼森山 12:10～35…登山口 P13:20＝北茨城市内民
宿

○1/24(月)：宿 8:20＝猿ヶ城林道入口 9:05～10…北
登山口 9:25…栄蔵室山 10:30～40…南登山口
11:15…林道入口 11:30＝大津漁港直営市場 12:25
～13:00＝松野屋＝石澤宅 15:00、解散 15:20

【第1日：1月23日(日)曇り時々晴れ】

○9:00 石澤宅に集合。増淵・荒井車に分乗し登山口へ移動。本日は茨城県側から鶏足山・焼森山へ向かう。登山口駐車場は日曜日ゆえ満車。大寒を過ぎ一番寒い時期ではあるが、曇り空の為か暖かい日である。9:50 駐車場発、登り始めからやや急ではあるが 20 分程で赤沢富士を通過。その先には富士山のビューポイントがあるが、残念ながら遠方は霞んで見えない。一度林道を横切り鶏足山への最後の登りへ入り 10:50 鶏足山到着。山頂の看板が二か所あるが北側のピークで休憩。山頂は展望も良く太平洋が望めるそうだが、この日はあいにくそこまでは見えず、日光連山も裾野がかるうじて見える程度。休憩を終えると鶏足山の名前由来と言われる鶏の鶏冠に似た鶏石まで下り記念撮影、再び来た道を戻り焼森山へ向かう。鶏足山からは 20 分ほどで山頂に到着、ここからは雨巻山や仏頂山など周囲の山々が良く見える。昼食を済ませた後下山開始、駐車場着 13:20。

○この日は天気も悪くはなかったが、本来の展望が見られず少し残念。焼森山はミツマタ群落の黄色い花も見事だそうで、春にまた来てみたいと思う。また下山後はこの山行のみ参加となった大島・深谷優子・深谷美月の 3 名は帰宅、他 8 名は北茨城市内の民宿に移動

し宿泊、冬の茨城県の味覚であるあんこう鍋を堪能した。

【第2日：1月24日(月)晴れ時々曇り、風強し】

○朝食後荒井、林両氏は山行に参加せず帰路につく。石澤他 5 名で栄蔵室山山行に 8:20 に宿を出発する。花園溪谷沿いの県道には雪が残っていたが問題なく通行でき猿ヶ城林道入り口に 9:05 に到着する。北登山口近くに駐車する予定であったが、林道が通行止めのため、林道入り口に駐車し 9:10 に出発する。風が強くかなり寒い。雪の残っている林道を歩き 9:25 に栄蔵室北登山口到着する。ここで本日のコースを確認する。沢沿いの登山道を進み No3 案内板から杉やヒノキの林の中を進み、作業小屋に到着する。ここで、休憩し雪の残った林道を進む。栄蔵室山近道入り口で林道を離れ、急坂を登ると茨城県単独最高峰の栄蔵室山 881.6m である。10:30 到着。記念写真を撮り休憩し、10:40 出発。急な階段を降り、林道進むみ、花園山分岐から南登山口に下山する。南登山口着 11:15。林道入り口駐車場に 11:30 着。

○頂上からの展望もなく樹林の中と林道を歩きで、登山としてはあまり面白みのないコースであったが、山行中月曜日ということもあり誰一人登山者に合うこともなく静かな山行を楽しむことができた。

○ここから大津漁協直営市場食堂に直行し 12:25 到着する。ここで豪華なランチを食べ、13:00 出発。松野屋で海産物を買って 13:25 出発し、北茨城インターから日立中央インターまで高速に乗り、石澤宅着 15:00。石澤宅で歓談後 15:20 解散する。



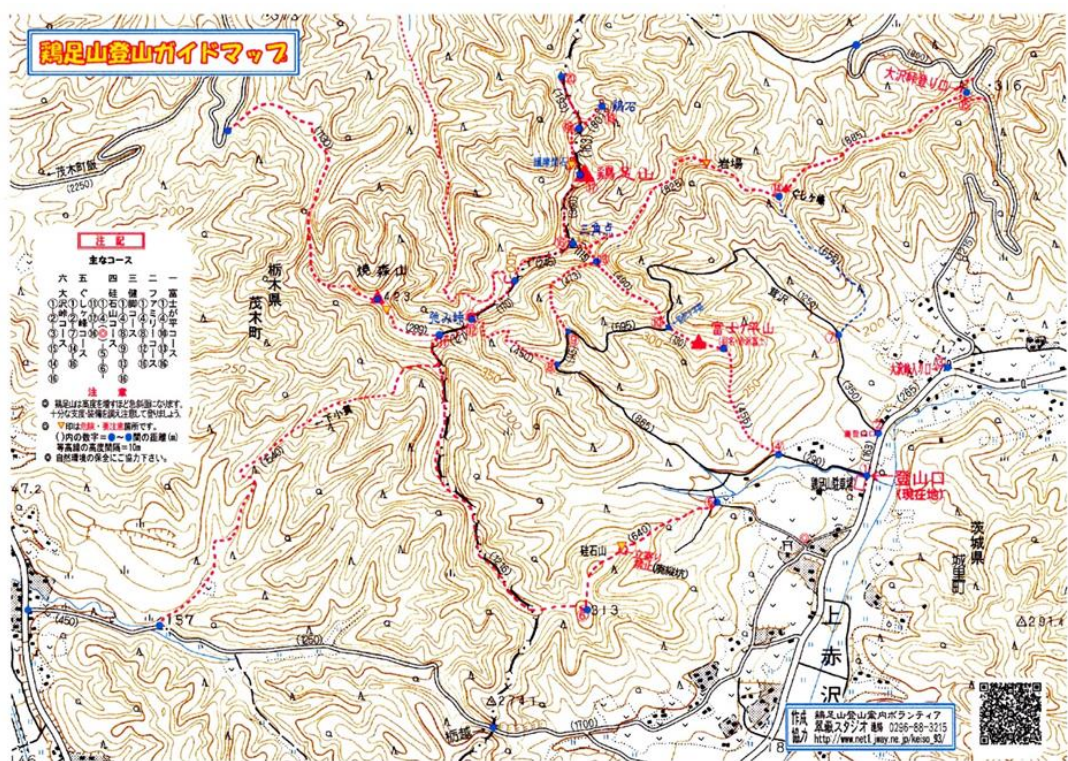
赤沢富士山頂



鶏足山の山頂にて



栄蔵室山の山頂にて



残念ながら中止となった支部関連行事

1	日光清掃登山	2021年7月4日(日)	白根山・五色山等	山岳スポーツクライミング連盟と共催
2	夏山山行・懇親会	2021年8月28日(土)～29日(日) 延期後9月18日(土)～19日(日)	尾瀬・長蔵小屋泊 燧岳	緊急事態宣言発出により中止
3	那須岳クリーンキャンペーン	2021年9月5日(日)	那須岳	山岳スポーツクライミング連盟・県労山と共催

◇◇◇マスターズクラブ山行◇◇◇

マスターズ山行 多気山

日時：2021年9月26日(日)

場所：多気山

参加者：2名(村田、長)

行動概要：

持宝院本坊側 P7:50…多気山登山口 8:05…御殿平公園 8:32～9:00…頂上三角点 9:10…林道 9:40…車道 9:50…送電鉄塔 10:05…持宝院本坊 10:20～10:30=蕎麦屋 10:50～11:30、解散

○市営駐車場より持宝院本坊に近い駐車場へ移動して8:00前に出発。すぐ階段になり上がった所は多気不動尊本堂。左に歩くと登山口に着く。下にシュウカイドウが満開に咲いていた。緩やかなカーブの道で、おしゃべりしながら楽しく歩けた。

○多気山御殿平公園に着き、眺めの良い所でお茶の時間にする。9:00 出発して山頂三角点に着くが曇っていて眺めが悪い。すぐ下って行っただが、昨日雨天だったので関東ローム層か？粘土質の下山道が林道に着くまで続くが、怖いので横の藪のほうを選んで下りる。さすがに若い村田さんも緊張したそう。林道を横切って、また少し上り車道へ着く前の所にミョウガの群落が有るが、収穫は終わっていた。車道の脇も少し滑りやすくなっていて、送電鉄塔に着いてから裏参道を上がって行く。持宝院本坊に着き、トイレ休憩。村田さんはシュウカイドウの写真を撮りに又階段を上がっていった。彼女を待っている間に雨が降ってきました。お彼岸の為か参拝者が

何組も来た。駐車場に戻ったが予定より早かったので蕎麦屋さんが開いていない。早めにかけてもらって昼食が出来た。昼食後解散しました。



多気不動尊



多気山山頂

8月8日(日)に予定していた横根山山行には、4名の参加予定者があったが、コロナ禍と雨天予報ゆえ中止にした。ここは2014年5月20日に故小島さんの案内で登山したルート。古峰原高原から横根山へ行き、ハイランドドッジから三枚石に戻り、古峰神社に出た思い出があるところ。小島さんとの山行を思い出しながら、加えて井戸湿原の夏の花に会えるか楽しみであったが、中止にしたのは残念至極である。

マスターズ山行 南平山

日 時：2021 年 11 月 15 日(月)

場 所：南平山

参加者：4 名(菱田、大島、村田、長)

行動概要：

菱田車で出発 7:50＝薬師の湯 P8:25～40…登山
口 9:00…尾根 9:25…休憩 10:00～15…頂上 11:00
～30…登山口 12:45…P13:10＝上今市 P13:45～
14:00、解散

○ガソリンの高騰もあり、1 台の車で行くことに
する。長が電車で来る事もあり、上今市駅
前の駐車場に集合。菱田氏が薬師の湯を知っ
ているので菱田氏の車で出発。今年は紅葉も
終わりと思っていたが、少しは残っていて皆
さん写真撮影が始まる。龍王峽に行くコース
を少し歩き登山口到着。私は年も年なので、
皆さんにはご自分のペースで歩いていただ
く。風もなく暖かい秋日和で紅葉を愛でなが
ら、皆さんは写真を撮りながら楽しんでジグ
ザグの道を登った。途中 3 ㌔の看板が有り、
私はため息。山はどんどん逃げて果てしなく
ジグザグが続く。途中休憩を入れてくれてコ
ーヒーで元気になった。やっと 1 ㌔になり、
0.4 ㌔の看板のジグザグが終わり、頂上に着
く。鈍足の私がコースタイムで歩きました
よ！と村田さんが言ってくれて疲れも吹き
飛んだ。遠く鶏頂山が大きく見え、昼食を取
り、集合写真を大島さんが撮り下山開始。途
中一組のご夫婦、単身の男性が登って来た
だけの静かな美しい山行となる。登山口に降
りて川の美しい景色をしばらく眺めて駐車
場に無事到着。上今市駅前の駐車場で解散した。

マスターズ山行 赤雪山

日 時：2021 年 12 月 13 日(月)

場 所：赤雪山

参加者：3 名(菱田、大島、長)

行動概要：

1 台を松田湖畔に置く＝大鳥居 P9:00…名草弁財
天 9:20…巨石群 9:30…長石林道登山口 10:00～
05…高圧線鉄塔下 10:25…赤雪山山頂 11:15～55
…松田湖畔 12:30＝ダム P12:35～50＝大鳥居 P
13:00～14:00、解散

- この日は朝から強風で行けるかどうか心配
したが、場所によっては風が無く歩き始めた。
- 名草弁財天の割石群はやはり見事だ。巨石
群の所の石を割って木が生えているのは今
まで気が付かなかった。長石林道でも大き
な石が無数に入っていて、その山は巨石群
で出来ていることも知った。
- やっと登山口に着いてほっとしたのも束の
間、長い階段が始まる。ピークもいくつか有
り、風が無い所は日差しが暖かく、晴れた青
空から富士山が見られた。鉄塔の所は特に
風が強く、飛んできた落ち葉が顔に当たり
痛い。頂上近くは岩交じりで楽に上がれな
い。しかしながらとても良いコースだと思
った。頂上ではお二人が待っていて、3 年前
の 2 月も其処だけ風が無かったが、今日も
暖かく、富士山、筑波山が見えた。昼食を取
り、写真撮影をして尾根道を下山する。松田
湖畔の駐車場でトイレ休憩とダムを眺めて、
大鳥居の駐車場に戻った。そして来年のマ
スターズ山行の打ち合わせをして解散した。



赤雪山山頂

マスターズ山行 男抱山・半蔵山

日 時：2022 年 1 月 17 日(月)

場 所：宇都宮 男抱山・半蔵山

参加者：5 名(菱田、大島、村田、長) + 新本政子
(関西支部)

行動概要：

ろまんちっく村 8:00＝男抱山登山口 P8:30…男
抱山山頂 9:00…富士山分岐 9:25…大岩 10:20…
林道 10:25…半蔵山山頂 10:40…羽黒山 11:20…
新里街道 12:25…男抱山登山口 P12:50＝ろまん
ちっく村、解散

- 朝は晴天で冷え込んでいるものの風がほとんどなく山行日和。集合場所のろまんちっく村に行くと、月曜日は休園とのことで、駐車場が開いていない。仕方なく登山口まで車で移動し、そこにある空き地に車を止めて歩き始めた。
- 最初の目的地男抱山は、標高 338 m と低いものの、山頂付近は岩場で、設置されたロープの助けを借りて登った。山頂は非常に眺めがよく、遠く富士山まで見ることができた(この山は双耳峰であってもう一つのピークの名も富士山)。
- 眺めを楽しんだ後、次の目的地半蔵山へ向かった。この辺りの山は“大谷石”と呼ばれる凝灰岩でできていて、大きな岩、今にも落ちてきそうな岩があるばかりでなく、石材として切り出された跡も見られた。“大岩”と名付けられた巨岩は、細い階段状に削られたところに張られたロープを使って上に登れるようになっていた(安全を考えて登らず)。また一方で、この岩は大きく削られてもいて、下部をくぐって、先に進むようになっていた。
- 途中舗装された林道を横切って、登山道は半蔵山へと続いている。半蔵山(602 m)の頂上は木立に囲まれて眺望は良くないが、木々の間から高原山が見られた。
- 半蔵山からの下りの途中に羽黒山というピークがあり、石造りの小さな社があった。さらに下っていくと、『男體山供○』と彫られた、どうやってどこから運んできたのだろうと考えてしまうような大きな石塔があった。また、下りきるあたりには庚申塔が何基もあり、かつてはこの山がいろいろな信仰の場であったことが伺えた。
- 下山後は、柚子の実がたくさんなっている

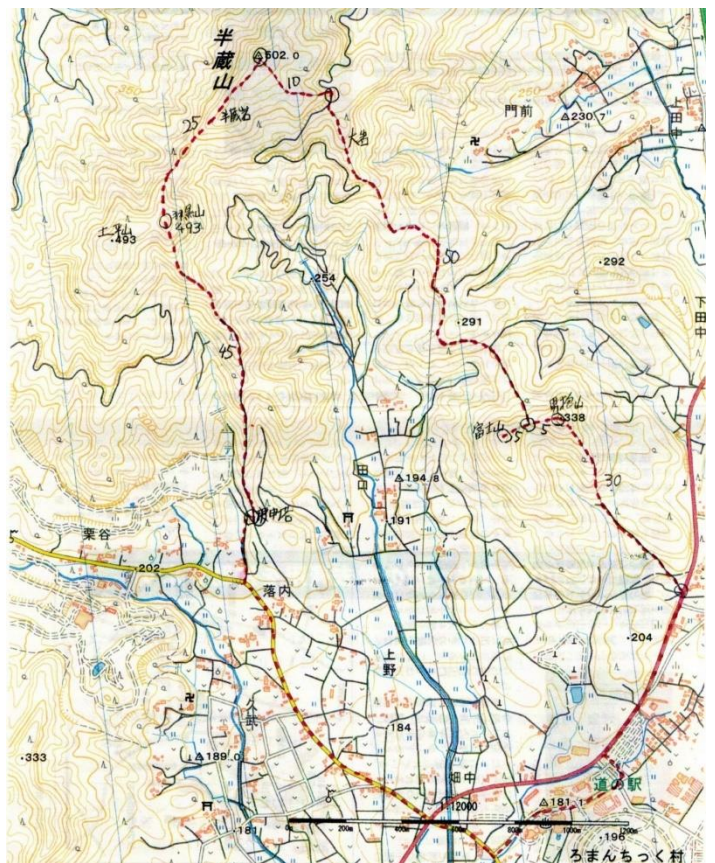
畑の中の道、そして国道を通過、駐車場所まで戻った。このころ空は曇り、少しみぞれが降ってきた。午前中所用があり参加できなかった渡邊支部長と合流し、昼食を一緒にとり、解散した。



男抱山山頂



半蔵山山頂



マスターズ山行 谷倉山

日時：2022年2月28日(月)

場所：栃木市 谷倉山(やぐらさん)

参加者：3名(菱田、大島、長)

行動概要：

星野遺跡「憩いの森」P8:00、発 8:15…地層たんけん館 8:25…芳姫の墓 9:20…主稜線 9:45…谷倉山 10:40～50…493m ピーク 11:20～30…梵天山見晴台 12:05…キャンプ場 12:25…星野遺跡 P12:40＝星野セツブンソウ群落地、解散

○前日から急に春の暖かさとなり、この日は雲も風もないとてもいい日だった。目指すのは、栃木百名山の一つ谷倉山(599.4m)。参加者3名は少し寂しいので、もっと多くの皆さんに参加していただきたいと思う。

○駐車場を後にして、しばらくは林道が続く。途中から沢に沿って登るが、土砂が流れてやや歩きにくい。「芳姫の墓 250m」の標識のところから、沢を離れると、急ではあるものの歩きやすい山道になる。

○芳姫*の墓には、石碑、句碑、崩れた燈籠があり、まだ新しい供え物もあった。そこから主稜線までは、直登するルートもあるようだったが、スギの林の中の作業道を登っていった。主稜線は、右(南)側にスギ、左(北)側に雑木かヒノキの林のなだらかな尾根で、山頂までゆるやかな登り。ほんのわずか雪が残っている。

○山頂は、電波塔がある少しがっかりなところ。山頂から北東方向は樹林を伐採した後に、植林(何の木か不明)が行われており、展望が開けていた。

○帰りは南尾根を下った。道は明確だが、途中にあるはずの、別ルートの山口沢林道コース

と東側の採石場方面へ下りるルートとの分岐は確認できなかった。493mピークの先の小ピークから西へ伸びる尾根を下っていくと梵天山見晴台と名付けられたところがあるが、木々が伸びたためか見晴らしはなかった。そこから作業道を下るとキャンプ場があり、民家の間を抜けて、駐車場に戻った。その後、近くのセツブンソウの群落を見に行った。

*芳姫：小山よし姫(おやま よしひめ)は南北朝時代の女性。小山氏第11代当主・小山義政の正室に対する現代での呼び名。地元の碑では芳姫の字をあてている。小山氏の乱での死去した伝説の中で登場している。

伝説：夫である義政が鎌倉府との三度目の戦いにおいて、現在の鹿沼市にあった小山氏の粕尾城に籠城していた際、よしは夫を追って粕尾城へ向かう途中、現在の栃木市星野に至った。そこで一晩の宿を提供し、なおかつ道案内をかって出た村人に、持っていた乾飯の袋を黄金の袋に間違えられ、こっそりと殺されてしまったと伝わる。

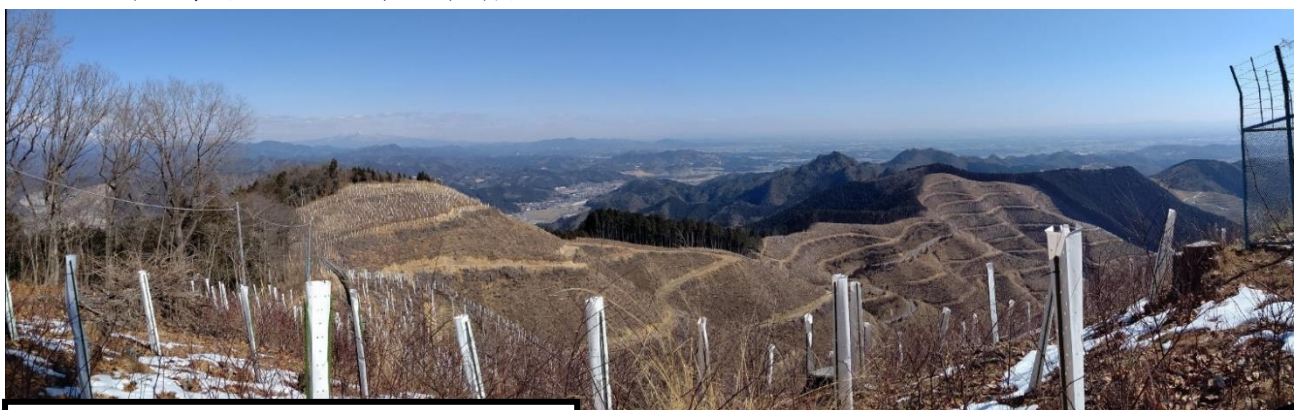
(Wikipedia から抜粋)



芳姫の墓



谷倉山山頂



谷倉山山頂から北東方向の伐採・植林地

マスターズ山行 御亭山

日 時：2022 年 3 月 28 日(月)

場 所：大田原市 御亭山(こてやさん)

参加者：5 名(長、菱田、君島、村田、大島、)

行動概要：

ろまんちっく村第 2P8:00(計画輸送で黒羽へ)＝
大雄寺 P(君島合流)9:30＝御亭山 P 車デポ＝愛宕
神社参道入口 10:20…愛宕神社 10:30…岡沢の頭
11:35～50…希望ヶ峰 12:30…御亭山 12:35～
13:00…御亭山緑地公園 P13:30…愛宕神社参道入
口＝ろまんちっく村第 2P、解散

○8:00ろまんちっく村に集合(長、菱田、大島、村田)。大雄寺駐車場で君島と合流。その後車 2 台(君島、大島)で、御亭山緑地公園駐車場へ 1 台置き、登山口にもう 1 台置き、5 人で愛宕神社参道入口から登山開始。朝より快晴ですが強風のため体感温度は低く、上着、帽子、手袋装備。鳥居をくぐると 400 段近い石段。登りがいがある。ホットひと息。先はゆるやかな道が続き、まずはひと安心。山頂への道から少し外れたところに愛宕神社。素朴な佇まいの神社だが、めずらしいと思う色付きの扁額(緑色に黒の文字、赤も)。展望はきかない。

○少し戻り、御亭山まで 6 km の標識。緩やかな道程で、綺麗な山道を進み、しばらく行くとショウジョウバカマの群落。花の咲き始めと思われる。あちらこちらにも咲いていて、写真を撮りながら進む。

○飯綱山 270m の標識。岡沢ボッチ 286m 岡沢の頭 380m、細かな標識なので迷わず進む。見晴らしの良い所に出て、那須連峰、大佐飛山地が良く見えた。強風のため長居はできず、先を急ぐ。御亭山まで 2 km の標識。尾根道を進むと一度車道に出て、すぐ左へ入る道があり、御亭山 1 km の標識。入ると今日一番の急登。トラロープがあり少しの間ながら登る。その後少し登ったところに東屋があり、見晴らし良く昼食と思ったが、強風の為やめて御亭山山頂(幸ノ峰)へ。展望図があり、とても素敵な所だった。

○その下で風の当たらない所で昼食。風がなければポカポカ。昼寝出来そう。登り始めと山頂手前が少しきつただけで、標識もこまめに有り優しい山であった。



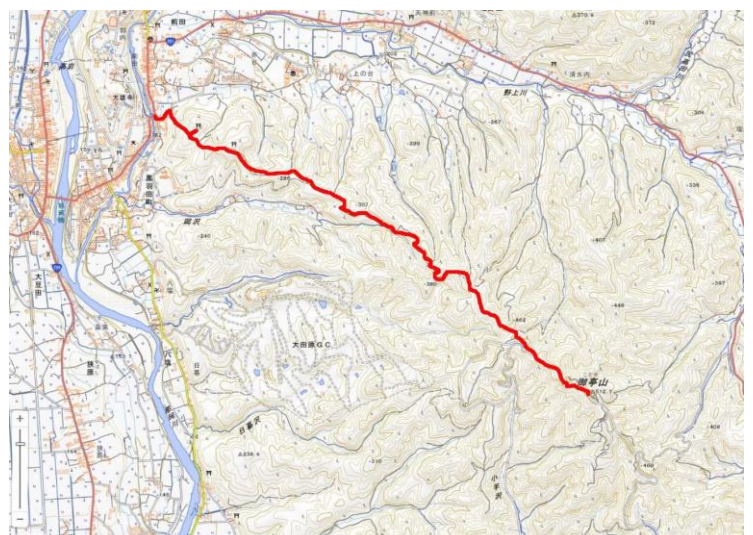
ショウジョウバカマ



岡沢の頭



那須連山を望む



◇◇◇ユース栃木山行◇◇◇

赤岩の滝登攀

日 時：2021 年 7 月 11 日(日)

場 所：日光赤岩滝

参加者：5 名(荒井、深谷、渡邊、猿山、林)

行動概要：【林は入会手続き中】

杉並木公園 P6:30＝赤沼車庫発低公害バス 8:10＝
西ノ湖入口バス停下車 8:32…赤岩滝登攀 10:00～
14:00…西ノ湖入口バス停乗車 15:14＝赤沼車庫 P
下車＝杉並木公園 P、解散

○私(荒井)が YOUTH 栃木委員長として計画した初めての山行となる。バリエーションルートの経験が少ない事もあり、諸先輩のご指導の下、温故知新として栃木国体(昭和 55 年)の登攀競技会場の赤岩滝の登攀に行くことになった。

○当日は梅雨の最中ということもあり曇天、昼頃から雷雨の予報も出ていました。西ノ湖入り口バス停から歩くこと約 1 時間、何度か渡渉を繰り返し赤岩滝が姿を現す。登攀の準備をして滝の左岸から岩にとりつく。トップに行く私は久々の外岩ということもあり、緊張しながら登り始めた。途中、残置の支点にランニングビレイをとりながら登り、早めに 1 ピッチを終了。セルフビレイをとりホットする。引き続き 4 人も続き、3 ピッチを終えたところで雲行きが怪しくなり登攀はここまで。もう少しで滝の落ち口を超えられたが、雷雨予報もでていたので残念だが下降となる。懸垂下降 2 ピッチで登攀開始地点まで下降。そこからは逃げ足速く小雨の降る中を下山、大きく天候も崩れる事なく西ノ湖入り口バス停に到着し無事に終了した。

○YOUTH 栃木メンバーの荒井・深谷にとって久しぶりにバリエーションルートを経験する事が出来、とても有意義な一日となった。この山行を機会に更なる技術向上を目指して経験を重ねていきたいと考えている。



登攀終了後



取付きにて

夏山山行

日時：2021年7月28日(木)～31日(日)

場所：北アルプス 奥穂高岳・槍ヶ岳

参加者：3名(荒井、深谷、林)

行動概要：

【7月28日(木)】

鹿沼市内 15:00＝鹿沼 IC＝北関東道＝上信越道＝
長野道松本 IC＝沢渡 P21:00【車中泊】

【7月29日(金)】

沢渡 P4:40《タクシー》＝上高地バスターミナル
5:20 着、同発 5:40…岳沢小屋 7:30～40 天狗のコ
ル 10:00～10 ジャンダルム 11:30～12:30…奥穂
高岳 13:40～14:00…穂高岳山荘 14:20【小屋泊】

【7月30日(土)】

穂高岳山荘 4:10…涸沢岳 4:30…北穂高岳 6:20～30
…長谷川ピーク 8:00…南岳 9:30…中岳 10:30…大
喰岳 11:10…槍ヶ岳山荘 11:40～12:00…槍ヶ岳…
槍ヶ岳山荘 13:00【小屋泊】

【7月31日(日)】

槍ヶ岳山荘 4:00…槍沢ロッジ 6:05～10…横尾山荘
7:00～05…徳沢キャンプ場 7:45～50…上高地バス
ターミナル 9:00

○実は昨年の夏、私(荒井)と深谷は西穂高岳山荘から奥穂・槍へと縦走の予定だったが、天候に恵まれず穂高岳山荘から下山となり、悔いの残る山行となった。しかし、ジャンダルムからの景色が見たいとの思いからこの夏山を計画する事にした。今回は林さんもメンバーに加わったが、仕事の都合で30日には帰宅しなければならず、穂高岳山荘からは別行動となる。その林さんとは北関東道出流原 PA で待ち合わせ、荒井・林それぞれの車両で沢渡へ向かった。途中、松本市内の銭湯で入浴・夕食を済ませてから沢渡駐車場へ入り、翌日に備え就寝。

○29日、駐車場入口に待機するタクシーに乗り上高地へ入る。駐車場で他に登山者は見当たらず駐車場もガラガラ、コロナの影響でお客も少ないと運転手さんもぼやいていた。上高地からは岳沢小屋を経由して天狗沢へ

入る。不安定なガレ場に注意をはらいながら進み、天狗のコルに到着。ここからが今回のルートの中でも危険な箇所を通過することになるが、天候は雨。ジャンダルムからの展望も絶望的と思われるなか、先へ進む。途中、雨足が強まる中、ジャンダルムに到着。雨はやんでいたののでしばらく粘ったが、真っ白で何も見えず諦めてピークを後にした。ロバの耳・馬などの難所を無事通過すると奥穂高岳に到着。山頂で写真撮影し本日の宿泊地、穂高岳山荘へと向かう。山荘はコロナ渦ということもあり混雑も無く、見下ろす涸沢のテントもまばらである。

○30日、槍へ向かう荒井・深谷は3:00に起床しインスタントラーメンで朝食を済ませると、そこへ本山下山する林さんが合流し、三人で涸沢岳へ出発。天候は霧。間もなくして山頂に着くが、霧と日の出前であることから視界は無し。そしてここで林さんと別れた。北穂高岳に近づく頃には天候も回復し北穂山頂からは槍の穂先まで続く稜線を見ることができた。大キレット、南岳への急登を無事通過し槍ヶ岳山荘へ到着。少し休憩をとり山頂へピストンしたが、ガスがかかり視界はギリギリ山荘が見える程度であった。夕方には涸沢岳山頂で別れた林さんと連絡がとれ、無事上高地への下山を確認した。後に聞いた話では奥穂山頂からはジャンダルムが綺麗に見えたようだ。

○31日、4:00に山荘を出発。槍の穂先へと向かうヘッドランプが幾つか見える中、二人は槍沢を下山、休憩もそこそこに上高地を目指す。9:00には上高地バスターミナルに到着。この三日間で一番の汗をかけた。

○今回の山行の目的であるジャンダルムからの景色を満喫することなできなかったが、歩き応えのある楽しい山であった。三人で日程を合わせるのはなかなか難しい事だが、またチャレンジしたいと思っている。



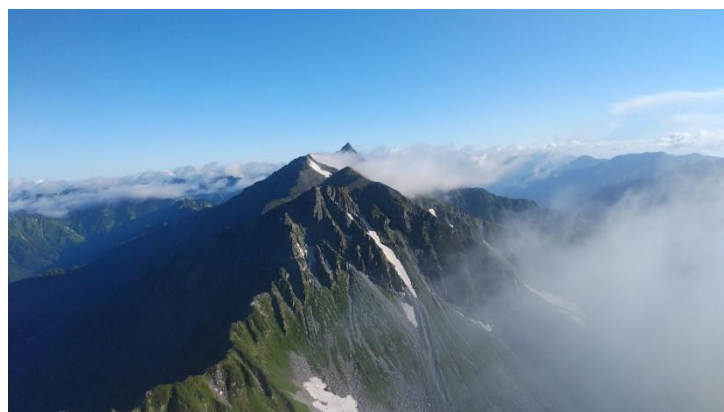
荒井

深谷

林



ジャンダルム



穂高から槍ヶ岳ねの主稜線

◇◇◇古道調査◇◇◇

古道調査(第1回)：三峯五禅頂

日時：2021年5月15日(土)曇り

場所：三峯五禅頂(中宮祠→細尾峠→薬師岳→地藏岳→古峯神社)

参加者：7名(渡邊、桑野、猿山、仲畠、荒井、坂口、増渕)

行動概要：

日光杉並木公園P集合、計画輸送＝中宮祠…茶の木平
登山口 7:45…茶の木平 8:52～9:20…細尾峠 10:20～
40…薬師岳 11:15～30…地藏岳 13:15～30…古峯神社
15:15＝計画輸送で日光杉並木公園Pで解散

○古道調査第1回目は、日光修験の道である三峯五禅頂のルートである。日光山の開山は今から1200年前、勝道上人の男体山初登頂成功に始まる。その際に出流山から古

峰原に至り、日光に向かった道筋が今回の調査ルートである。古くから山岳修行の行者道として歩かれていたが、残念ながら明治時代の修験道廃止令によって途絶えてしまった。現在は前日光高原登山道として整備されており、かつて盛んであった修験道の跡を偲ぶ石の祠を散見しながら日光連山の展望を楽しむことができる。

○茶ノ木平へは中宮祠からの登山道入口から登る。かつてはロープウェイもあったが今は廃止されている。また、明智平からの登山道もあるが、現在は通行止めとなっている。茶ノ木平では、しばらく周りをうろつき金剛堂遺跡を確認した後に細尾峠への下り道をたどる。籠石を経て細尾峠に降り立つと、

坂口、増渕両氏が待機してしてくれた。両氏は、計画輸送と中継係として私たち調査隊のサポートを担ってもらう。峠の車道脇には他の登山者の車が数台駐車していた。

○ここから急な尾根筋を登り、薬師岳(1420m)の肩に出て、山頂を往復した。ここでは薬師像などを確認した。山頂から尾根を南に夕日岳分岐である三つ目に向かう。途中では不動明王像や金剛堂の遺跡を確認した。この尾根筋は男体山をはじめ日光の山々を遠望できる良い展望ルートである。

○三つ目からは、夕日岳山頂往復は省略して地蔵岳(1483m)に向かう。山頂には山の名前の通り地蔵尊が安置されている。山頂から

の下りは崩壊場所などもあり足元に注意しながら標高差 200m でハガタテの鞍部に到着、尾根筋を外れて南の谷筋をだらだらと下り林道に合流する。林道と古峰ヶ原峠からの車道の合流地点に、坂口、増渕両氏が車で待機しており、ここで調査隊はピックアップしてもらった。

○その後、古峰神社を参拝し大天狗の御前で、これからの山岳古道調査の安全祈願をした。かつて盛んであった修験道の史跡を確認しながらの、楽しい調査であった。今回は下見の意味を持った調査なので、今回はさらに時間をかけて踏査予定である。



茶の木平のお札



細尾峠にて



薬師岳山頂
の金剛堂



地蔵岳山頂
の地蔵尊

古峰神社に参拝



古道調査(第2回)：会津中街道

日時：2021年7月10日(土)

場所：沼ッ原～三斗小屋宿

参加者：9名(渡邊、石澤、仙石、長、菱田、桑野、猿山、増淵、仲畠)

行動概要：

道の駅やいた 7:30＝沼ッ原 P8:40…湯川渡河 10:00
…三斗小屋宿 10:30～11:00…三斗小屋温泉 12:20
～13:20…牛ヶ首分岐 13:50…日の出平分岐 14:50
…沼ッ原 P16:30＝道の駅やいた 17:40、解散

○日本山岳会は 120 周年を迎えるにあたる記念事業として昨年より 2025 年にかけて、山岳古道調査を行ってる。その第1次調査対象として栃木支部が担当する大峠(会津中街道)の第1回目の調査である。今回は、大峠までは行かず、沼ッ原から三斗小屋宿までの予備的なものであった。

○出発地点までは、顧問の坂口三郎さんも同行し、我々を見送った後、沼ッ原湿原の散策と板室宿周辺の街道旧跡の調査をされた。また出発地点には、青森支部事務局長であり現在那須にお住いの中村仁さんをご挨拶にみえた。

○沼ッ原駐車場を出発し、湿原の雨あがりで滑る木道を進んだのち、三斗小屋宿へ向かう山道へ入る。しばらくほぼ平坦な道を進むと、沓内観音と呼ばれる石仏があった。その後麦飯坂と呼ばれる急な下りになり、下りきって湯川を渡ると道は三斗小屋宿に向かって登っていく。途中深山ダム方面からの道と合流し、そこからは林道を歩くことになる。

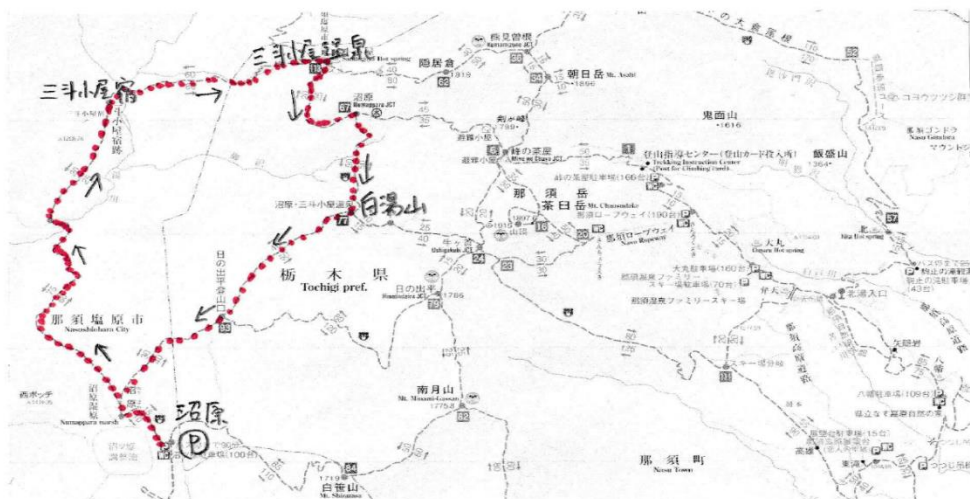
○三斗小屋宿が近づいたところの左側に、墓や石仏がたくさんあった。三斗小屋宿は開けたところで、往年の繁栄が偲ばれる。ここでやや長い休憩をとったのち、標高差約350mの三斗小屋温泉へのこの日一番の登りとなる。三斗小屋温泉では、秋の山行で宿泊を予定している大黒屋さんにご挨拶をし、軒先をお借りして参加者の足並みをそろえるために長い休憩をとった。大黒屋さんからオレンジジュースの差し入れがあった。

○そこからは白湯山信仰の地を右下に感じながら、沼ッ原駐車場へと向かった。

○連日雨模様で、雨に降られる覚悟だったが、幸運にも青空が広がり快適な山行となった。今回は初回ゆえざっと回ったが、街道沿いの石仏などを詳細に調査したり、白頭山信仰の御宝前を目指して藪漕ぎをすることは大変だと感じた。秋山山行では、大峠へも向かう予定である。



三斗小屋宿にて



古道調査(第3回)：会津中街道

前述の『秋山山行&第3回古道調査』参照

古道調査(第4回)：西沢金山跡

日 時：2021年11月7日(日) 晴

場 所：西沢金山跡～金田峠～湯元温泉

参加者：5名(渡邊、石澤、仙石、桑野、仲島)

行動概要：

日光杉並木公園 P7:00＝山王林道經由西沢金山跡
8:20～9:00…新道(昭和の道)…ガレ沢通過 10:00
…金田峠・深山之宿跡 10:50～11:15…刈込湖 12:10
…小峠 13:00～15…湯元温泉 13:40…日光ビジター
センター13:50～14:30＝日光杉並木公園 P16:00 解散

○古道調査4回目は、雪の降る前、葉が落ちて見通しの良い時期を選び計画。秋晴れの気持ちの良い朝、奥日光は霜が降り、カラマツの黄葉が太陽に輝いている。西沢金山跡から金田峠へのルートは高難山中腹ルート of 古道と於呂俱羅山中腹ルート of 新道と2本あり、昭和の道とも言われる新道を調査した。

○仙石氏の計画輸送協力で、山王峠を越えて西沢金山跡に到着。明治・大正・昭和初期にかけて金鉱石を産出し、最も多い時は人口1300人ほどの町が存在していたという話は俄には信じられなかったが、残っている石積みや百葉箱の残骸を見ると、その頃の生活が偲ばれました。

○金山跡の調査は早々にして、人馬が行き交った湯元温泉と結ぶ古道調査へ出発。緩やかな九十九折りの道型が残り、マーキングを見落とさないよう登る。倒木を跨いだり潜ったりしながら、ガレ沢を2回通過。途中踏み跡が分からなくなってしまう場所もあったが、金田峠 10:50 到着。1450m付近から1850mの峠まで約400mの登り、途中では警戒音のような鹿の鳴き声が何度も響き、「奥山に紅葉踏み分け鳴くシカの～」の一首を囃みしめた。

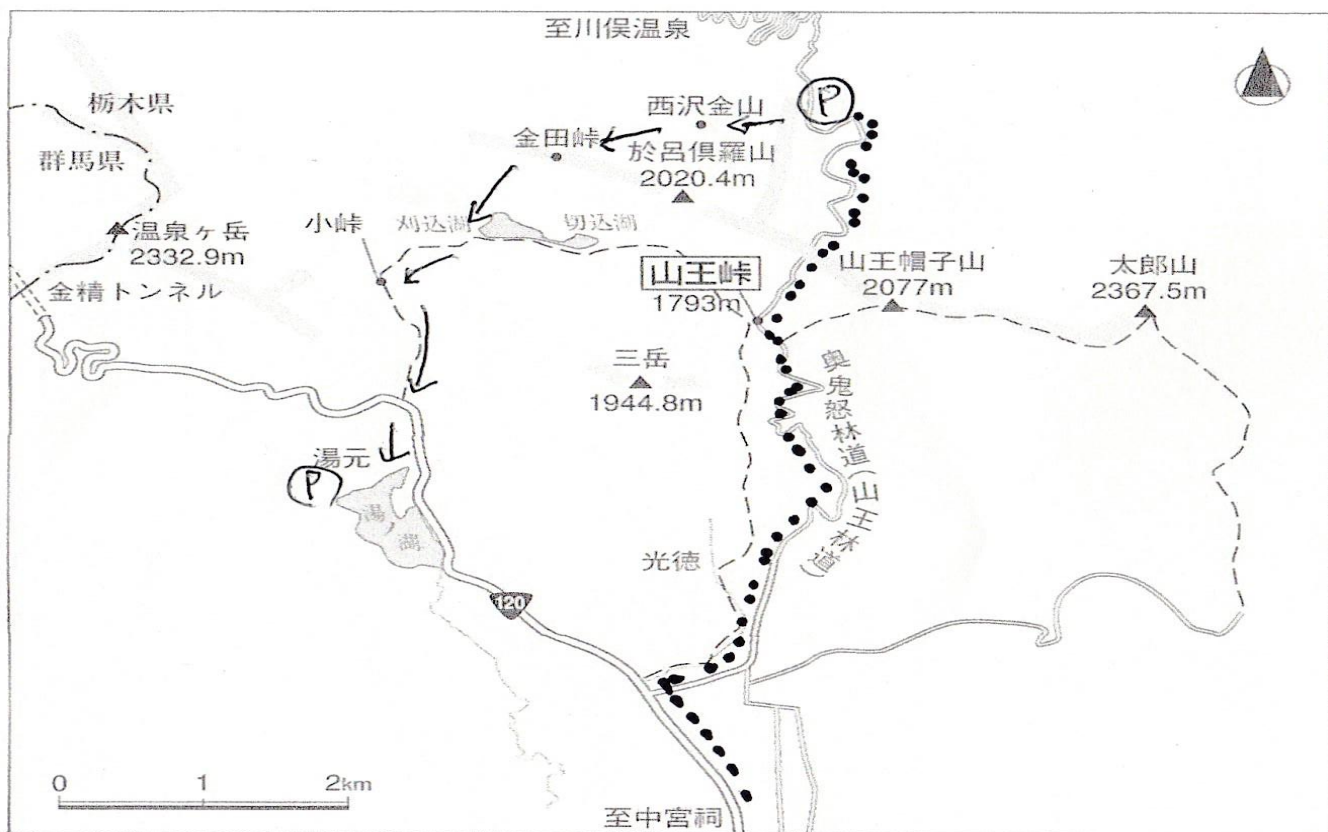
○深山之宿跡にある石の祠も見つけ、いよいよ刈込湖への道となる。最初は広い道型が分かったが、途中笹藪やシャクナゲジャングル、火口壁に当たる急斜面に突入してしまった。

ズンズン進むのではなく、間違ったところに戻り、もう一度古道を見つける。昔の地図のルートやネットに上がっている軌跡を頼るより、現在地を確かめ、地形に聞くことがルートファインディングなのだなぁと、普段は登山道しか歩いていない私は実感した。

○刈込湖ほとりに降りてホッとしたのもつかの間、湖畔の広い平地のどこが古道なのか、痕跡不明。ここでも3人の長年の知識と体験からルートファインディングをし、ドビン沢沿いに登り詰めていくことにしました。現在のハイキング道は昭和50年頃付け替えられていて、旧道が小峠に続くと踏んだ。崩壊地や倒木で塞がれてもいたが、小峠付近に来ると車道跡も残り、問題なかった。13:00 小峠で昼食休憩し、湯元温泉登山口の国道に13:40 到着。

○日光湯元ビジターで桑名所長と金田峠のルートについて情報交換し、観光客で激込みの日光市内を眺め、杉並木公園駐車場 16:00 到着、解散。

○楽しい一日をありがとうと言いたい。2010年に「栃木の峠」を執筆された桑野先生が、金田峠の取材をしていたが、調査しきれずに残念ながら載せることができなかったと話されていた。峠でたどる暮らしと文化の意味がちょっとずつ解ってきた。



左 西沢金山跡出発

右上 金田峠

右下 湯元温泉ハイキング道下山

古道調査(第5回)：会津西街道

日時：2021年11月14日(日) 晴

場所：会津西街道(横川宿～山王峠～道の駅たじま)

参加者：7名(渡邊、坂口、仙石、長、仲畠、荒井、林)

行動概要：

会津鬼怒川線・上三依塩原温泉口駅 8:00＝横川宿 8:05

～8:15…横川P登山口 8:30…山王峠 9:25～10:00…

国道 10:55…山王茶屋跡・神社 11:10…道の駅たじま

11:20～50＝上三依塩原温泉口駅、解散 12:10

○古道調査5回目は、前回から1週間後に計画された。秋晴れの気持ちの良い朝で霜が降り、国道121号・400号・352号の重用道路両側の茅ぼっちが真っ白だった。本日は、会津西街道(会津城下と今市宿を結ぶ街道、総延長132キロ)の山王峠を通る古道の調査で、江戸時代の参勤交代の道であり、主要物流経路で、明治11年「日本奥地紀行」で英国の女性紀行家イザベラ・バードが調査旅行をした古道を辿ることになる。

○上三依塩原温泉口駅駐車場 8:00 集合、2台の車に分乗し横川宿へ移動、国道沿いに口留番所跡がある。会津藩の関所で、人や物の出入りを管理していたところだ。現在は如意輪観音堂が建っている。物産店「百姓家」のある横川パーキングに車を止め、お店の裏手から山道に入り山王峠を目指す。計画輸送協力の坂口顧問と長さんはここから別行動、ドライブしながら会津西街道界隈を調査、美味しいものを味わっていたそうだ。

○古道を歩き始めると直ぐに、鎖が張られ入山禁止の札が下がっていましたが、何のためなのか考えながらも、ずんずん進む。植林され、管理が行き届いた山林で、逆に林道が何本も通っておりフェイクをかけられる。新入会員の林さんと若手の荒井さんが、何度も林道その先を確かめに縦横無尽に歩いてくれた。沢沿いに古道を辿るとまもなくスカイラインが見える。植林された杉林は、枝打ちが行き届き、真っ直ぐ伸び陽光が美しく、周りの広葉樹はすっかり葉を落とし、

日光の女峰山の山並が遠望できた。

○9:25 馬頭観音像のある山王峠930mに到着。細尾根に沿って西側は荒海山に続き、東側は男鹿岳に続き、旧国道の山王峠は東方面にちょっと進んだ所にあるようだ。昭和55年に山王トンネルが開削されてから通行禁止になった廃道には、ガードレール、県境の看板、カーブ注意の看板等がひっそりと残っていた。

○10:00 山王峠を下り始める。どこかに山王権現社跡の鳥居の礎石が残っているはず、少し平らになった所にそれはあった。道型に沿って、落ち葉の降り積もったフカフカの古道を、旧国道を横切りながらカサコソ音を立てて楽しく下っていく。山王川の沢に出て、沢沿いに行くか、旧国道に行くか迷い、二手に分かれていくと、結果はどちらでも良かった。ただ、この辺から古道の影は薄れ、堰堤工事や旧国道の負の遺産、ごみが多く投棄されていた。

○まもなく国道に出て、道の駅たじまを目指し、車がビュンビュン行き交う道路を歩く。途中に山王神社があり、神社隣の平な所に山王茶屋があったと思われる。現在建物は奥会津博物館に移築し、古民家カフェとして利用されているそうだ。

○11:20 道の駅たじままで踏査終了。上三依塩原温泉口駅駐車場に計画輸送で戻り、解散。プロジェクトメンバーから候補の上がった古道調査に私は4本参加したが、歩いて空気を吸い、その場に立って初めて、昔の息遣いを感じることができた。イザベラ・バードの著書に分水界のことに触れてあるが、山王峠を越え沢沿いに歩き違和感を覚えた時、それが川の流れる方向だったのだと知ったことであった。



山王峠 馬頭観音像とともに



道の駅たじまにて



古道調査(第6回)：半月峠道

日 時：2021 年 12 月 11 日(土) 晴のち時々曇り
場 所：足尾 深沢林道～半月古道～半月峠～中禅寺湖
参加者：5 名(渡邊、菱田、桑野、増渕、林)
行動概要：
日光杉並木公園 P7:30＝足尾深沢林道口 8:20…林道終
点 9:05…一の茶屋跡 10:05～20…金山茶屋(三の茶屋)
跡 11:15～35…神子内資材治山運搬路 11:50…運搬路
終点 12:35…半月峠 13:30～50…中禅寺湖歌ヶ浜 14:50
＝日光杉並木公園 P15:30、解散

○今回の古道調査は、足尾と中禅寺を結ぶ半月峠道だ。この道は古くからあった中禅寺路(阿世湯峠道)に代わって、大正 9(1920)年に開かれた比較的新しい？道である。しかし昭和 11(1936)年に細尾峠に自動車道が開通すると足尾から中禅寺へは車で「いろは坂」を経て行けるようになり、廃れてしまう。とはいうものの、県道 250 号中宮祠足尾線に認定されている。

○日光杉並木公園に集合、輸送担当の増渕氏の車で足尾へと向かう。足尾赤倉郵便局の先の県道の入口に車を止める。そこは、かつて栃本屋旅館があったところとのことだ。再び車に乗り、林道を進むが、5 人乗った乗用車では、度々底を擦るので、500m ほど進んだところで、車を降りた

○林道の終点から沢に下りて渡渉するが、地理院地図に騙されて？少し先まで行ってしまった。戻って橋台(写真 1)の残る沢を渡り、沢沿いの登山道を進む。道は随所に石垣や縁石があり(写真 2)、かつてはよく整備された道であったことが伺える。

○1 時間ほど歩くと、城の石垣のようなものが現れた。そこは、一の茶屋跡(写真 3)で、ここでも繁栄の跡が伺える。石垣の上で微妙なバランスを保つ燈籠は、東日本大震災の揺れにも耐えたようだ。この近くで、2 体の石仏(写真 4)を確認した。ここで、シカを追うハンターに会い少し話をした。道のあちこちにシカの糞が落ちており、角も拾ったし、クマが寝ていた跡と思われる落ち葉のへこみもあった。小休止後、さらに 1 時間ほど歩く

と、植林された林の中の、三の茶屋跡に着きました。ここには石碑(写真 5)があり、『正一位深沢神社 御嶽山 義仙行者』と刻まれている。

○茶屋跡から七曲と呼ばれる文字通り七つのカーブのある急斜面を登ると、神子内資材治山運搬路という林道に出て、しばらく林道を歩く。ここまで来ると、半月山が見え(写真 6)、そのほか皇海山や遠くは筑波山も見えた。

○林道の終点からは、再び山道に入り、中禅寺湖スカイラインの終点の駐車場の下を通過して、半月峠に着く。そこからは、男体山と中禅寺湖が眺められ(写真 7)、私たちにはやや見慣れた風景ですが、足尾から初めて来た昔の人々にとっては感動ものだったと思われる。峠から狸窪(ムジナクボ)へ下り、輸送担当の増渕氏が待つ歌が浜駐車場へと向かい、今回の調査を終えた。

○かなり苦労してよく整備したと考えられるこの道が、わずか十数年でほとんど使われなくなってしまったことが、何かとても残念に思えることであった。



写真 1 橋台



写真 2 縁石



写真3 一の茶屋跡



写真6 林道終点から半月山



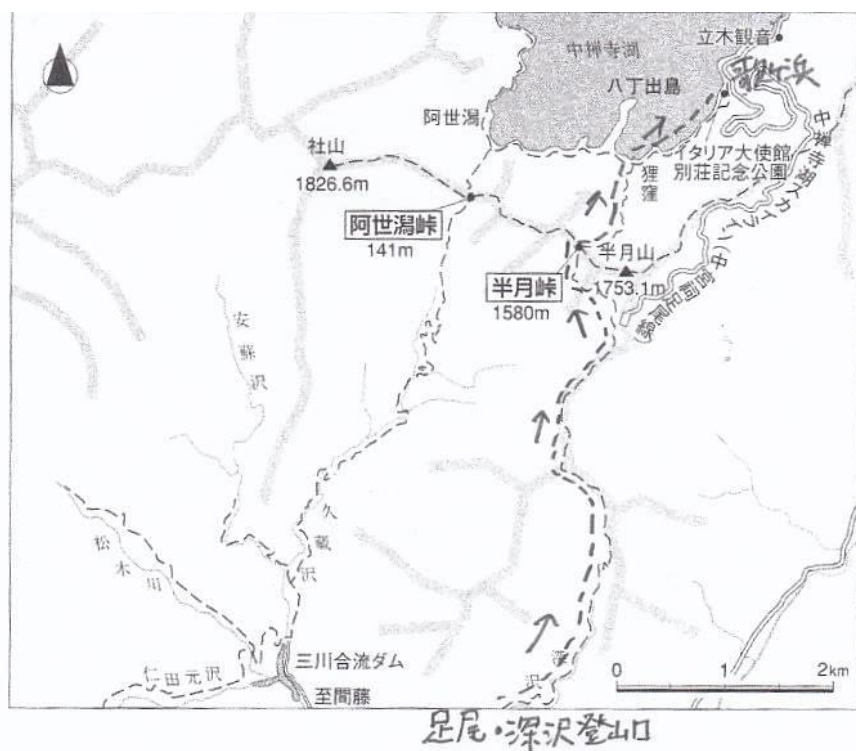
写真4 石仏



写真7 半月峠下から男体山



写真5 石仏



◆◆◆会員投稿・会員情報◆◆◆

……………桑野正光会員……………

**八溝の方言を「辞典」に…病と闘いながら完成、
ネットに公開** 2021/08/30 09:00

病と闘いながら、八溝の懐かしい言葉をまとめた桑野さん（宇都宮市で）

旧大内村（現那珂川町）出身の桑野正光さん（77）が、県東部の八溝地域の言葉をまとめた「栃木八溝方言ごじゃっぺ辞典」を完成させ、インターネットで公開した。重い病と闘いながら「故郷の記録を残したい」と書き上げた。桑野さんは「戦後の激しい社会変革の中、八溝地域も劇的に変化した。言葉を通して、地域の歴史にも触れてほしい」と語る。

桑野さんは1944年1月、旧大内村で生まれた。国語教師として宇都宮女子高校などで勤務し、定年後は那珂川町教育長も務めた。健康が自慢だったが、72歳の時、急性白血病を患い、約1年間入院生活を余儀なくされた。

「残された人生で、八溝の言葉を記そう」。宇都宮での生活が長くなり、親も呼び寄せ、生家を空き家にしていたため、過疎が進む故郷に負い目もあった。病と闘いながら方言をまとめる作業を進めた。

辞典は、昭和30年頃の少年時代に使っていた言葉を中心に1334語を掲載。工業化の急速な発展で、葉タバコやこんにゃく栽培、林業が盛んだった旧大内村でも、若者は都市に流れ、村人の多くが離農、会社勤めへと変わっていく時代だった。桑野さんは「戦前の自然、風習、文化、人のつながりが、残っていた最後の時期だった」と振り返る。

「きたい 予想外であることで、良いことにも悪いことにも使う。『何でななぐなっちゃたのか、きたいだな』

「ござっばたき 『ざんばらい』ともいう。寄り合いで、当家の都合も考えずいつまでも飲食をして席を立たない人のこと」

入院中にメモを作成し、退院後は故郷で古老たちに聞き取りをして、細かなニュアンスを確かめた。すでに使われなくなった言葉も多く、懐かしがる古老たちの話は止まらず、メモし続けた。辞典では、できるだけ具体的用法も添えた。

ネット公開にあたり、桑野さんは、少年時代の学校生活、山や川遊び、日々の食事、農機具や生活道具、民間療法など50本のコラムを書き上げ、「覚え書き」として掲載。日陰の田に水をまいて凍らせて遊んだ「下駄 スケート」など、子どもたちの生き生きとした姿がよみがえる。

タイトルの「ごじゃっぺ」は、うそ、でたらめ、冗談などの意味だが、愛嬌のある語感が好きで、名付けたという。桑野さんは「言葉は、歴史そのもの。何でもない農村の言葉は、なくなれば消えるだけ。記録することで、少しは故郷に恩返しできたかな」と笑う。

辞典のアドレスは

<https://www.mkuwano.com>



【2021年8月30日付読売新聞の記事より】

山行報告

憧れの梅海新道 不知をめざして

- 1 期日 2021年10月1日(金)～4日(月)
- 2 場所 北アルプス 梅海新道
- 3 行程 北又小屋～イブリ山～朝日小屋
(宿泊)～朝日岳～黒岩山～梅
海山荘(宿泊)～菊石山～白鳥小
屋～尻高山～親不知天陰口
- 4 参加者 猿山浩、他1名
- 5 行動概要

10月1日(金) 21:00 栃木出発、栃木ICから上信越道経由で北陸道糸魚川ICまで。最寄りの親不知IC近くにはコンビニがないので1つ前で高速を降りた。**25:00** 親不知天陰口着。トイレがある駐車場で車中にて仮眠。

10月2日(土) 黒東タクシーに**5:00**のピックアップを予約していたが10分前には来てくれた。小川温泉から北又小屋までの林道は降雨、所々落石があったが、無事1時間ほどで到着。タクシー代**14000**円だが事前にダウンロードしておいた申請書を出せば一人千円の補助が受けられるので**12000**円で済んだ。運転手から朝日小屋へ差し入れる朝刊を託された。後日偶然知ったが、このタクシーは帰路パンクし路肩で立ち往生していたらしい。この山域は電話が通じないがタクシー無線は通じたのか心配。北又小屋で身支度を調べ**7:00**出発。ブナ平(5合目)、イブリ山で小休止を取り**12:00**朝日小屋着。昼から外のテーブルでビール。最高だ。この先しばらく好天の予報なので急にお客さんが増えたそうだが、コロナ対策で定員を半分の**50**人に制限しているので夕食は1回戦だった。管理人の清水ゆかりさんの挨拶、音頭で乾杯し相変わらず旨い夕食にありつけた。

10月3日(日) 5:40 ゆかりさんに見送られヘッドライト点灯で出発。無風満天の星空。こ

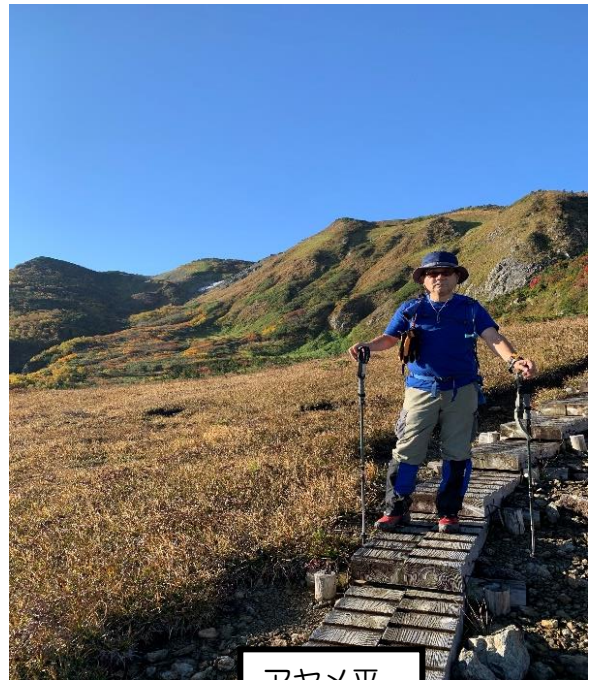
れ以上望むものはない。途中の木道は凍っていて滑りやすい。池塘には薄氷。朝日岳山頂に着く前には明るくなった。ダウンを着て御来光を待つ。朝日岳山頂で雲間から昇る朝日に向かって手を合わせた。吹上のコル(梅海新道の高位起点)にさわがに山岳会が設置した開通記念の道標がある。それにタッチし、ここから二日間で**27km**先の親不知の海をめざす。アヤメ平の紅葉が美しい。黒岩山、サワガニ山を経て、北又の水場で水を補給し、犬ヶ岳を越えて、**11:50**梅海山荘着。昨年崩落し、閉鎖されていた犬ヶ岳の手前は巻き道が築かれヤブ漕ぎで通過した。午前中小屋にはまだ誰もいなかった。2階の窓際に陣取り朝日小屋の寿司をつまみに昼からワインとウイスキーを飲んでいると1階に続々と人が集まってきた。新潟県の山岳会の方が騒がしくなって申し訳ないとロング缶のビールを2本くれた。夕方夕食作りのため下に降り、外のテーブルで他のパーティの人たちとお酒を飲みながら談笑した。そこにも山岳会の人びがビールを数本差し入れてくれた。ここまでビールを担ぎ上げるのは並大抵の事ではない。そのビールを惜しげなく下さった方々にお礼を言うため1階に立ち寄ったところ、宴席に誘われた。テント泊の方々も参加して小屋仕舞い前の大宴会になった。私にとってコロナ発生以来初の酒宴だった。梅海新道の生みの親でJAC 越後支部名誉会員の故・小野健氏のお話やヤブ刈りの苦労をドンガラ山の会のレジェンド星野さん(86歳)から当時の写真を見ながら聞かせていただいたのは貴重な体験だった。

10月4日(月) 1:40 出発。いわゆる「カモシカ山行」的なものになった。眠いし酒は全然抜けていない。菊石山、白鳥山への登り返しは本当にキツかった。相方のUは余裕シャクシャクだったが私はへとへとになって白鳥山荘に着いた。外でうたた寝し、珈琲を淹

れ、大休止した。小屋番の人が気さくな人だった。シキ割の水場の手前で大事件が起きた。至近距離で熊に遭遇したのだ。と言っても先頭のUしか見ていないが、**170cm** クラスの成獣が5m先にいて目が合ったという。私はガサガサと谷に降りていく音だけ聞いた。坂田峠、尻高山、二本松峠を越えて、親不知天険口には**11:40**に到着。駐車しておいたクルマにザックを置いて、海まで更に**80m**降りて、海に飛び込んだ。**10**月とは言え暑かったので心地よかったし、感慨深かった。その後、親不知観光ホテルで入浴し、ウエストーン像と2ショット写真を撮って、富山側の食堂に行き、お昼を食べた。頑張った自分へのご褒美になった。高揚した気分のままクルマを走らせ栃木に到着した。

6 その他

憧れの梅海新道をコンプリートするのは私の長年の夢だった。これほどロマンに満ちた登山道は他にない。その道を開通**50**周年記念の年に好天に恵まれ歩けたこと、梅海山荘で梅海新道を愛し守ってきた人たちと知り合えたこと。その縁で後日小野建さんの絶版になって **Amazon** でも手に入らない著書『山賊野郎の青春』まで贈っていただいた。『梅海新道を拓く』の改訂前の本で本音に溢れて素晴らしい内容だった。昨年悪天候の中テントで西穂、ジャンダルム、穂高、槍の縦走をしたとき出発地の上高地で山のウエストーン碑と写真を撮ったが、今年は最終目的地の親不知で海のウエストーンと写真を撮った。自分の仲で何かが完結した気持ちになった。



アヤメ平



犬が岳



朝日小屋のご主人と



梅海山荘にて

……………仲島正子会員……………

日本山岳会栃木支部入会のきっかけ そして現在

今から45年前、高校に入学しました。緊張の連続の日々、担任の先生に山岳部の入部を勧められ、部室の記念館に行くと、山への憧れを熱心に語る先輩方、包容力抜群の顧問の先生方がいらっしゃり、足を踏み入れてしまいました。半月山から入山し、阿世瀉でテントを張り、社山から雪の残る黒檜山に登りました。何でこんな辛い部活に入ってしまったのかと後悔しましたが、親に登山靴やユニフォームの高額なお金を出してもらっているのです、途中で辞めるわけにはいきません。

部活動を3年間続けた後は、登山とは無縁になっておりましたが、中高年登山ブームになり、恩師がコンセーレで中高年のハイキング講座を教えていることが分かりました。足を一步入れると、今度はすっかり嵌ってしまいました。高校1年生の夏山は槍ヶ岳で、肩の小屋で皆が頂上まで登るのを先生と見送った苦い思い出の山、平成16年にリベンジが叶いました。恩師桑野先生の誘いを受け、日本山岳会栃木支部に入会したのです。

コンセーレハイキング講座を卒業した人たちで、2年後『CHCハイキングクラブ』を設立しました。講座を卒業した人の受け皿のような存在でしたが、クラブ員で幹事長・幹事を務めると、徐々にクラブとして独立することができてきました。岳連にも加盟し、指導員の資格も取り、講習会にも積極的に参加してきました。節目の5周年の時は槍ヶ岳登山、31名の大所帯でしたが、無事全員山頂を踏みました。10周年は飛行機移動で北海道大雪山へ、その後は毎年南と北を交互にスペシャル登山をしています。令和2年が15周年になるので、九州霧島山を計画していましたが、コロナ禍で延期、1年遅れの秋に3度目の正直で実施す

ることができました。(別紙報告書のとおり)
私は令和4年3月に、お陰様で無事定年退職を迎えることができました。高校3年間の部活動で培われた精神力が大きかったのではないのでしょうか。その時、お世話になった先生方がたくさん在籍されている日本山岳会栃木支部は、私の原点とも呼べる場所で、大切な会です。これからもよろしくお願いします。

山行報告

CHC設立15周年記念登山

霧島山(韓国岳)・開聞岳 鹿児島観光

- 1 実施日・天候 令和3年10月23日晴、
24日 晴のち小雨、
25日 雨のち晴、26日 晴

- 2 山名・目的 韓国岳(1,700m)

開聞岳(924m) 両山共日本百名山
設立15周年記念登山である。昨年5月、今年5月と山行を計画したがコロナ禍で延期になり残念な思いをしたが、感染防止を徹底して実施する。

- 3 交通機関 鹿沼観光(羽田往復)

ソラシドエア航空(羽田⇄鹿児島)

JAL(鹿児島⇄羽田)

さつま交通観光(九州内移動)

- 4 参加費 106,800円

- 5 幹事・参加者

(幹事) 仲島正子 (参加者) (計13名)

- 6 コースタイム

【10月23日(土)】行動時間 約4時間20分
(歩行距離約7km)

鹿沼観光(4:00)⇒東北自動車道⇒首都高速道路⇒羽田空港(6:15~7:25)(朝食)羽田空港発(7:45)⇄鹿児島空港着・発(9:30~10:00)→ホテルピコライ(荷物預け、昼

食 11:00～11:25)…韓国岳登山口(11:30)
…韓国岳(13:30～13:45)…韓国岳登山口
(15:30)…えびのエコミュージアムセンタ
ー(15:30～15:50)…ホテルピコラナイえ
びの高原(16:00) (泊)

【10月24日(日)】 観光

ホテルピコラナイえびの高原(8:00)⇒九
州自動車道・指宿スカイライン→知覧武家
屋敷(10:00～11:15)→知覧桜見亭(11:30
～12:00) (昼食) …知覧特攻平和会館他
(12:00～14:00)→池田湖(14:35～15:00)
→JR 大山駅(15:15～15:30)→長崎鼻
(15:40～16:10)→コンビニ→指宿シーサ
イドホテル(16:45) (泊)

【10月25日(月)】 行動時間 約6時間20
分(歩行距離約9,0km)

指宿シーサイドホテル(6:25)→開聞岳登
山口(6:40～6:55)…五合目(8:15～8:25)
…仙人洞(9:10～9:15)…開聞岳(10:20～
10:25)…仙人洞(11:30)…五合目(12:40)
…開聞岳登山口(14:00～14:10)→山川砂
むし温泉砂湯里(14:40～15:30 入浴)→休
憩⇒ホテル吹上荘(17:10) (泊)

【10月26日(火)】 観光

ホテル吹上荘(7:55)→鹿児島城山公園
(8:05～8:30)→仙巖園(8:45～10:10)→始

良IC⇒溝辺鹿児島IC⇒道の駅霧島(11:40
～12:30) (昼食)→霧島神宮(12:40～
13:00)→バレルバレープラハ&GEN
(13:50～14:30)→鹿児島空港着(14:40)・
鹿児島空港発(16:25)⇒羽田空港着(18:00
～18:15)→首都高速道路→東北自動車道
(途中SAにて夕食)→鹿沼観光(21:15)

7 装 備 4日間通常装備 行動食

非常食 マスク 携帯用消毒液

8 感想・他

・開聞岳登山は、悪天候になり時間がかかっ
てしまうが、全員登頂し、無事安全に下山で
き、CHCハイキングクラブの真骨頂を発揮で
きたと思います。

・幹事長が急遽参加できなくなり大変残念で
したが、〇〇さんの日本百名山完登に合わせ、
素晴らしい横断幕を作ってお祝いしてくれま
した。

・私は未熟ながら幹事長代理を務め、幹事長の
立てた計画を忠実にやりきることだけを考え
ておりましたが、皆さんの絶大な協力のもと、
ほぼ予定通りに遂行できました。感謝申し上げ
ます。

・北海道と九州を毎年交互に実施してきた山
旅、来年度以降に繋がって欲しいです。



……………山本武志会員……………

台湾 南湖大山 (3742m)

山本武志

昭和 57 年 (1982 年) 正月、我々 O B 会は台湾・桃園空港に降り立った。迎えてくれたのは旧知の間柄の中華民国山岳会の人達でした。空港前に「歓迎法政大学南湖大山登山隊」のとても大きく大きな横断幕を掲げてくれていて、いつもながらのオーバーで微笑ましい対応をしていただいた。

台北市内に移動して、装備の点検、食糧の調達、報道陣の対応と、忙しくも楽しい海外遠征の始まりだった。夜は中華民国山岳会の主催の歓迎晩餐会を受ける。いつもと同じく酒、酒、責めには驚かされる。飲み且つ台湾料理を食べ、社交ダンスまでして、懇親会が終了。雪の南湖大山の登頂期待を一身に受け、一日は過ぎた。

二日目の早朝、予約したトラックで宜蘭 (いいらん) 県經由思源垭口に着いた。ここから距離 7 km 弱の登山口に向け行動開始である。誰が教えたわけではないが、登攀リーダーの後ろを若い隊員を先頭に年代順に歩き出した。長い林道歩きにうんざりしたところ登山口に着いた。森林帯を 5 時間ぐらい歩き、雲陵山荘に着いたときには既に暗くなっていた。

三日目の未明、余分な装備類は小屋に置き出発した。この年は、日本の山も雪が多く遭難が多発していた。台湾の山もご多分にもれず雪が多く、雪の中を出発した。南湖大山北峰から南湖山荘に下り休憩の後、悪天候であり、本峰に向け登るか登らないかを協議した。吹雪の中、危険で登頂を断念せざるを得ないかなと思われたが、空港での横断幕がよぎり、登らなければならないと感じたのは私ばかりではなかっただろう。

悲壮な覚悟で登りだす。現 O B 会長吉原隊員、藤井登攀隊長、桜井監督の猛ラッセルで 3742m の山頂に立てた。藤井登攀隊長の冷静沈着、的確な判断が下山の時でも発揮された。それとともに中堅隊員諸君の強さは抜群であった。

私と言えば写真撮影と 8 ミリ撮影で記録をしていたので、カメラがあったので登れたようなものだった。この遠征に参加したいと言っていたが、前年病死した部の同期の友人の遺影を雪の中に埋めた。彼も私の登頂を陰ながら後押ししてくれたと思う。

「良き師、よき友、つどい結べり」の校歌を歌って頂上を辞した。視界の悪い吹雪の中をカールの底にある南湖山荘まで下り、疲労困憊であったが南湖大山北峰まで最後の気力を振り絞り登り返した。天気が回復してきて、雲陵山荘には薄暗くなるころに着いた。一番若い吉田隊員は幻覚を見ているような歩き方だったと述懐していた。山荘に着いてホッとしたがデポした食糧が現地人に荒らされていて、やっとな残ったものを掻き集め、空腹を満たした。

最後の夜は我々の主催で晩餐会が行われ、苦しくも思い出多い南湖大山遠征の幕を引いた。

追悼

【小島守夫氏】

会員番号 6189

2020年2月14日逝去

享年80歳



1940年宮城県石巻市生まれ。

日本山岳会栃木支部設立会員。

15歳から山歩きを始める。

宇都宮大学入学以来栃木県人となる。

大学在学中は山岳部に所属、卒業後は栃木県庁に入庁。

1967年には栃木県山岳連盟20周年記念事業として南米アンデスの親善登山に参加、キムサクルス山群4峰に初登頂。

その後栃木県山岳連盟理事長、副会長、会長を歴任。

また栃木県山岳遭難対策協議会会長として、栃木県の『山のグレーディング』作製に尽力。

またその幅広い人脈を活かし、多方面で活躍されており、HAJ、HAT-J、JMCA（日本山岳文化学会）会員として活動。



【坂口三郎氏】

会員番号 7973

2021年11月20日逝去

享年94歳



1926年 福岡県若松市生まれ

1938年 福岡県立小倉中学校(旧制)

1943年 海軍兵学校(広島県江田島、第75期) 在校中に終戦

1948年 宇都宮市で水産卸事業を経営

1965~1981年 栃木県山岳連盟理事長

1975年6月 日本山岳会入会

1982~1999年 栃木県山岳連盟会長

1995~2001年 日本山岳協会会長

2001年 叙勲(勲四等瑞宝章)

2007年5月 日本山岳会栃木支部設立発起人

2021年11月20日 94歳にて自宅で永眠



◆◆◆栃木支部会員◆◆◆

No.	番号	氏 名	備 考
1	4633	山野井 武夫	顧問
2	4661	森 元一	
3	6956	井上 孝郎	
4	7914	渡邊 雄二	支部長、兼事務局長
5	8282	上野川孝一	
6	8383	前田 洋子	
7	8386	牛窪 光政	会計監事
8	8432	前田 文彦	
9	9265	石沢 好文	副支部長
10	9350	山本 武志	委員
11	10459	仙石 富英	委員
12	10885	蓮實 淳夫	
13	11381	関根 和男	
14	11621	高野 正道	
15	12466	長 百合子	委員
16	12503	菱田 克彦	委員
17	13600	永谷 義篤	
18	14419	斎藤 隆	
19	14438	神島 仁誓	委員
20	14483	東 和之	
21	14510	桑野 正光	会計監事
22	14518	猿山 浩	委員
23	14527	稲葉 昌弘	委員
24	14529	麦倉 常治	委員
25	14536	後藤 尚	委員
26	14626	内間 茂	
27	14650	早川 和子	
28	14656	石井シモ子	
29	14667	増渕 仁一	委員
30	14679	仲畠 正子	委員
31	14681	吉澤 照子	
32	15212	深谷 篤志	委員
33	15382	深谷 優子	
34	15384	君島 敏明	
35	15456	青山 孝雄	
36	15625	村田 美代	
37	16048	坂口 直孝	
38	16405	荒井 理	委員
39	16434	鬼頭 秀夫	
40	16459	大島 健一	
41	9168	浅川 とみ子	
42	16532	吉澤 順一	
43	16671	山口 剛	
44	16705	水野 雅章	
45	16822	林 祐壽	委員

【2022(令和4)年5月17日現在】

事務局より

- 2020 年度は、コロナ禍により支部行事の多くが中止になりました。したがって『栃木支部報』第 14 号発行は取りやめとなりました。
- あけて 2021 年度は、まだ従来通りとはいえませんが、感染症対策を講じつつ山行等が行われるようになり、『栃木支部報』は 2020 年度分も合わせての発行となり、第 14・第 15 合併号という形になりました。
- これまでの支部報と同様に、総会・役員会の報告、支部主催の山行報告、マスターズクラブ山行報告、ユース栃木山行報告、会員投稿・会員情報が多くを占めますが、加えて古道調査を掲載。さらには故小島守夫会員、故坂口三郎会員、の追悼にあたり、お二人の略歴のみをしました。
- なお、お二人の追悼文については、会員ばかりでなく、多くの方から寄稿していただきましたので、今回の合併号には間に合わず、後ほど別冊として発行する予定です。
- まだ提出されていない方でも、是非思いを載せたいという会員は、6 月末日までに写真や文章のデータを寄せてください。
- 事業が終了しましたら報告書を作成されることかと存じますが、報告書と写真等を必ずメールにて送信いただきますようお願いいたします。当方のメルアドです。
kami-jin@sepia.plala.or.jp
- 毎回苦勞するのが会員投稿のページです。是非とも多くの会員から貴重な原稿をお寄せいただきたいと思います。
- この他にもいろいろなページを考えたいと思います。個人山行の文・写真、ご自分でこだわって調べていること、私のこだわりの趣味等々、新企画のご提案等がありましたらご遠慮なさらずにご一報下さい。みんなで支部報を作り上げましょう！！

☆☆あとかぎ☆☆

- 楽しい企画のご提案、山行等の玉稿があればどしどしお寄せください。(カミジン)

